

(案)

# 第2次京丹後市スポーツ推進計画

**市民が楽しみ ともにつくる スポーツのまち**

平成30年3月

京丹後市教育委員会



# 目次

<b>第1章 計画の策定にあたって</b> .....	<b>1</b>
1. 計画策定の趣旨.....	1
2. 計画の位置づけ.....	1
3. 計画の期間.....	2
4. 計画の背景.....	2
<b>第2章 現状と課題</b> .....	<b>3</b>
1. 人口・世帯の状況.....	3
2. 小中学生の運動、スポーツの状況.....	4
3. 公共スポーツ施設利用状況.....	10
4. スポーツに関する市民意識調査結果.....	12
5. 第1次スポーツ推進計画の評価のまとめ.....	32
<b>第3章 基本的な考え方</b> .....	<b>35</b>
1. 基本理念.....	35
2. 計画の目標.....	36
3. 施策体系.....	37
4. 施策の展開.....	38
<b>第4章 計画の推進に向けて</b> .....	<b>48</b>
計画の進捗管理.....	48
<b>資料編</b> .....	<b>49</b>
平成26年度スポーツ政策調査研究調査報告書抜粋.....	49
京丹後市スポーツ推進審議会条例.....	50
京丹後市スポーツ推進審議会委員名簿.....	51
用語解説.....	52



# 第1章 計画の策定にあたって

## 1. 計画策定の趣旨

スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足をもたらすものであり、「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と広く捉えられており、スポーツ基本法では「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」であるとされています。

スポーツには、競技としてルールに則り他者と競い合い自らの限界に挑戦するものや、健康維持や仲間との交流など多様な目的で行うものがあり、全ての人が積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ることで、それぞれの人生を生き生きとしたものとするのが期待されています。

こうした状況を踏まえ、国においては、平成27年10月にスポーツ庁を発足させ、平成29年3月に「第2期スポーツ基本計画」を策定しました。同計画では、多面にわたるスポーツの価値を高め、広く国民に伝えていくために、スポーツについて、①スポーツで「人生」が変わる、②スポーツで「社会」を変える、③スポーツで「世界」とつながる、④スポーツで「未来」を創るという観点から説明を行い、「スポーツ参画人口」を拡大し、他分野との連携・協力により「一億総スポーツ社会」の実現に向けて取り組むことを基本方針としました。

本市では、「第1次京丹後市スポーツ推進計画」に掲げた施策「ライフステージに応じたスポーツ施策の推進」「スポーツ競技力の向上」「スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実」「スポーツを支える基盤の整備と交流の促進」を柱に、暮らしの中に「スポーツ文化」という視点を取り込み、スポーツを通じてすべての市民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を目指し、競技力の向上、観光との連携、健康づくりの推進に力を注ぎ、関係機関との連携を深めながら「スポーツ文化の都 京丹後市」の創造に努めてきました。

こうした取り組みを評価、検証し、更なる発展へとつなげるため、生涯スポーツ社会の実現に向けたスポーツ振興を推進し、年齢や性別を問わず、広く市民がその適性やライフステージに応じて参画できるスポーツ、また、障害のある方が、健常者と一緒に楽しく、気軽に参加できるスポーツを通じて、共生社会の充実を図るとともにグローバルな人材育成を目指し、国際大会等の開催など、中長期的な展望に立った「第2次京丹後市スポーツ推進計画」を策定します。

## 2. 計画の位置づけ

本計画は、国の「第2期スポーツ基本計画」とともに、京都府のスポーツ推進計画及び第2次京丹後市総合計画「基本計画」をはじめ、本市の関連計画との整合性を図り策定しています。

また、本市がスポーツ実施率の向上を目指し行った取り組みを継続・発展させるとともに、年齢、性別を問わないスポーツの推進及び障害者スポーツへの取り組み、そして、健康増進のため

のスポーツとスポーツを活用した観光の推進などスポーツ分野の施策を体系化し、目指す方向や取り組みの内容を具体的に示します。

### 3. 計画の期間

本計画は、平成30年度から平成39年度までの10年間の本市スポーツ推進の目標と目的達成のための方策を示すもので、今後は、本計画に示す内容に沿って施策を進めていきます。なお、本計画に基づく施策の実施状況や成果等は、適宜把握しながら、具体的目標の達成について検証し、5年後を目処に、計画の見直しを行う予定です。

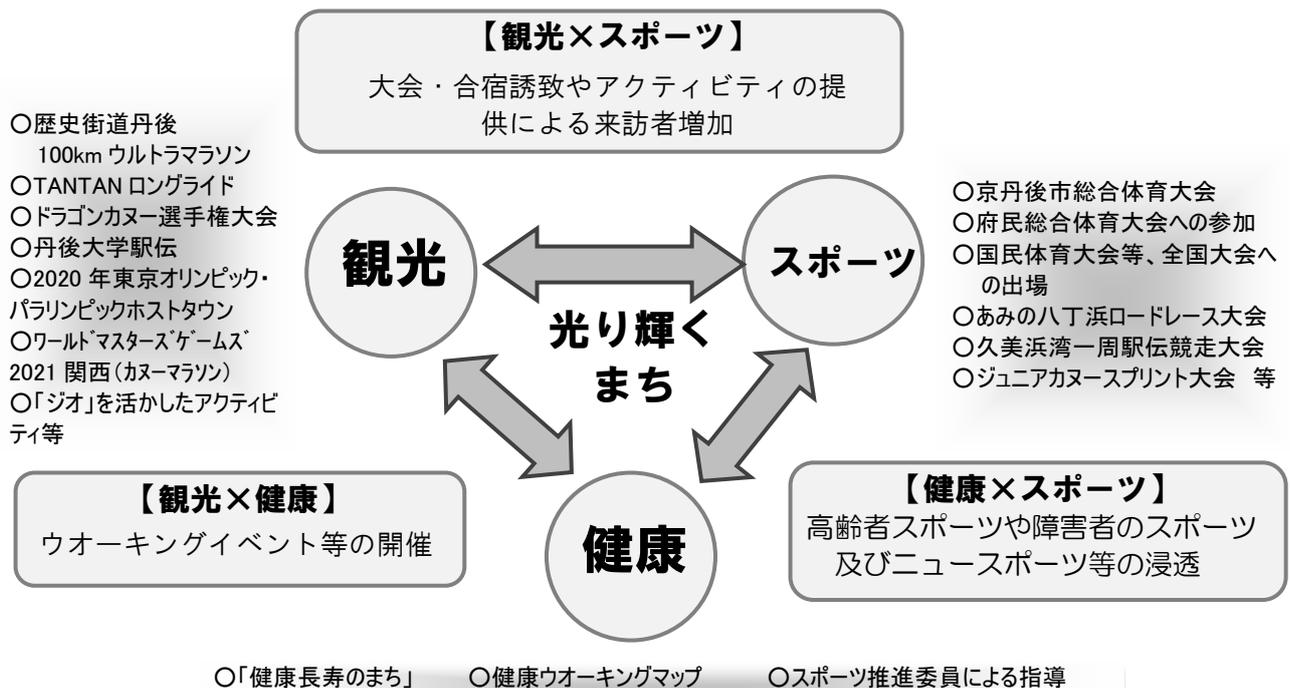
平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度	平成39年度
第2次京丹後市スポーツ推進計画			中間見直し			第2次京丹後市スポーツ推進計画			

### 4. 計画の背景

スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、スポーツの「楽しさ」「喜び」こそがスポーツの価値の中核で、全ての人が自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、スポーツの力で光り輝くことにより、前向きで活力ある市民生活へとつながります。

本市では、豊かな自然環境を活かした様々なスポーツが展開されています。また、「京丹後」百寿人生のレシピを作成するなど、「健康長寿のまち」としての事業も推進しています。

健康で暮らし続けるためのスポーツ活動、豊かな自然環境を活用したスポーツ観光の充実など、スポーツと健康そして観光が連携を図ることで、「市民が楽しみ ともにつくる スポーツのまち」を実現させるための多面的なスポーツ施策の展開を図ります。



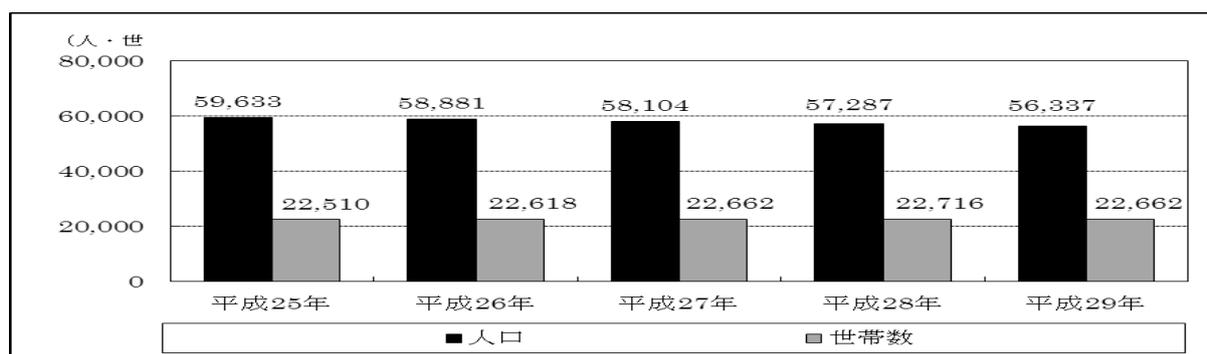
## 第2章 現状と課題

### 1. 人口・世帯の状況

#### (1) 人口・世帯の推移

本市の人口及び世帯数の推移をみると、平成29年3月末の人口は56,337人に減少している一方、世帯数は増加傾向で、22,662世帯となっています。

##### ■人口・世帯の推移



資料:住民基本台帳(各年3月末)

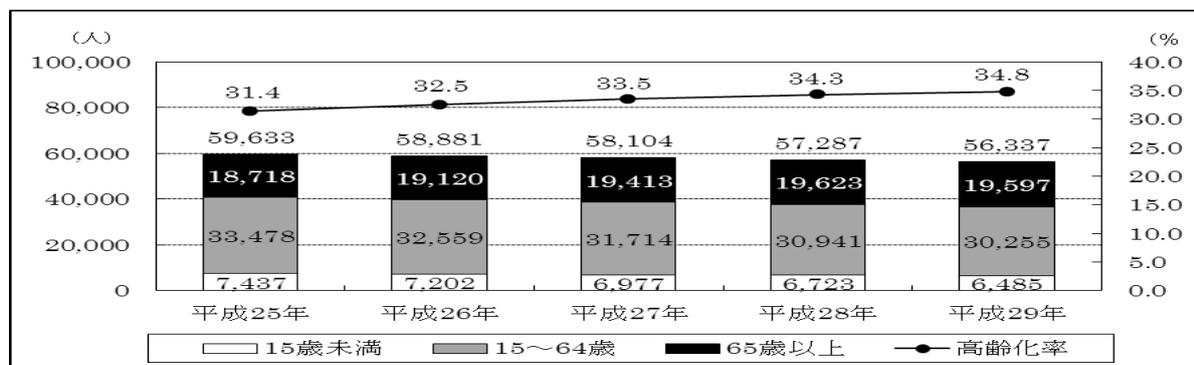
#### (2) 年齢階層別人口の推移

年齢階層別人口の推移をみると、15歳未満人口と15～64歳人口が減少傾向にある一方で、65歳以上人口は増加しています。高齢化率は、平成29年3月末には34.8%となり、毎年上昇しています。

高齢者が増加する本市において、いつまでも健康で、生きがいを持ち続け、<sup>※</sup>医療費の軽減にもつながる、高齢者に向けたスポーツ機会の充実が一層重要となります。

※資料編参照(p49)

##### ■年齢階層別人口の推移



資料:住民基本台帳(各年3月末)

## 2. 小中学生の運動、スポーツの状況

### (1) 体力テストの結果

市内の小学校5年生と中学校2年生の体力テストの結果は、全国の結果と比較すると、小学校、中学校ともほぼ同程度ですが、中学校においては、平成24年度に実施した同調査の体力テストと比較して、体力の低下が見受けられるため、体力向上につながる取り組みを推進する必要があります。

#### ■体力テストの結果（京丹後市・全国：小学5年生）

種目	小学5年生男子 【京丹後市】	小学5年生男子 【全国】	差	小学5年生女子 【京丹後市】	小学5年生女子 【全国】	差
	平成28年度	平成28年度		平成28年度	平成28年度	
握力(kg)	16.0	16.4	▼0.4	15.9	16.1	▼0.2
上体起こし (回:30秒間)	19.4	19.6	▼0.2	17.9	18.6	▼0.7
長座体前屈(cm)	31.6	32.8	▼1.2	34.5	37.2	▼2.7
反復横跳び (回:20秒間)	42.6	41.9	△0.7	40.9	40.0	△0.9
20mシャトルラン (回)	56.6	51.8	△4.8	47.8	41.2	△6.6
50m走(秒)	9.3	9.3	0	9.6	9.6	0
立ち幅跳び(cm)	153.9	151.3	△2.6	148.2	145.3	△2.9
ソフト投げ(m)	23.2	22.4	△0.8	15.0	13.8	△1.2

資料：体力・運動能力調査

#### ■体力テストの結果（京丹後市・全国：中学2年生）

種目	中学2年生男子 【京丹後市】	中学2年生男子 【全国】	差	中学2年生女子 【京丹後市】	中学2年生女子 【全国】	差
	平成28年度	平成28年度		平成28年度	平成28年度	
握力(kg)	27.5	28.9	▼1.4	22.6	23.7	▼1.1
上体起こし (回:30秒間)	28.0	27.4	△0.6	23.1	23.4	▼0.3
長座体前屈(cm)	39.7	43.0	▼3.3	42.7	45.4	▼2.7
反復横跳び (回:20秒間)	52.9	51.9	△1.0	46.6	46.6	0
持久走(秒) 男子 1500m 女子 1000m	378.9	391.7	△12.8	278.7	288.5	△9.8
50m走(秒)	7.8	8.0	△0.2	8.6	8.8	△0.2
立ち幅跳び(cm)	194.0	194.6	▼0.6	170.3	168.2	△2.1
ハンドボール 投げ(m)	19.1	20.5	▼1.4	12.3	12.8	▼0.5

※「△」は京丹後市が全国を上回り、「▼」は京丹後市が全国を下回っていることを表します。

資料：体力・運動能力調査

## (2) 中学校運動部活動状況

市内の中学校運動部活動の生徒在籍状況では、少子化の進行に伴い学校によっては競技種目が限られていることから、学校間や地域スポーツの連携も必要となっています。

■生徒在籍状況（平成 29 年 5 月現在）

単位：人

		軟式 野球	ソフト ボール	バレー ボール	バスケット ボール	ソフト テニス	卓球	陸上 競技	サッカー	体操 競技	カヌー	計
峰山 中学校	男子1年	16	-	-	8	6	10	7	6	0	-	53
	男子2年	11	-	-	10	8	3	7	13	5	-	57
	男子3年	11	-	-	4	19	7	14	5	1	-	61
	計	38	-	-	22	33	20	28	24	6	-	171
	女子1年	-	2	6	12	7	3	8	-	5	-	43
	女子2年	-	7	4	9	10	1	6	-	8	-	45
	女子3年	-	13	4	4	18	2	7	-	8	-	56
	計	-	22	14	25	35	6	21	-	21	-	144
大宮 中学校	男子1年	9	-	-	4	16	2	7	8	-	-	46
	男子2年	5	-	-	11	17	11	6	12	-	-	62
	男子3年	10	-	-	8	11	8	7	10	-	-	54
	計	24	-	-	23	44	21	20	30	-	-	162
	女子1年	-	6	6	4	11	5	3	1	-	-	36
	女子2年	-	4	5	7	8	7	2	3	-	-	36
	女子3年	-	5	14	5	10	3	0	3	-	-	40
	計	-	15	25	16	29	15	5	7	-	-	112
網野 中学校	男子1年	6	-	-	9	13	7	10	-	1	-	46
	男子2年	14	-	-	10	11	8	4	-	5	-	52
	男子3年	4	-	-	4	8	13	12	-	0	-	41
	計	24	-	-	23	32	28	26	-	6	-	139
	女子1年	-	-	8	7	10	6	5	-	4	-	40
	女子2年	-	-	9	6	13	2	6	-	2	-	38
	女子3年	-	-	8	5	11	5	8	-	5	-	42
	計	-	-	25	18	34	13	19	-	11	-	120
丹後 中学校	男子1年	7	-	-	5	-	4	3	-	-	-	19
	男子2年	2	-	-	8	-	4	2	-	-	-	16
	男子3年	4	-	-	11	-	3	6	-	-	-	24
	計	13	-	-	24	-	11	11	-	-	-	59
	女子1年	-	5	3	-	-	3	1	-	-	-	12
	女子2年	-	7	3	-	-	0	3	-	-	-	13
	女子3年	-	7	4	-	-	1	7	-	-	-	19
	計	-	19	10	-	-	4	11	-	-	-	44

単位：人

		軟式 野球	ソフト ボール	バレー ボール	バスケット ボール	ソフト テニス	卓球	陸上 競技	サッカー	体操 競技	カヌー	計
弥栄中学校	男子1年	5	-	-	2	7	-	6	-	-	-	20
	男子2年	8	-	-	3	6	-	8	-	-	-	25
	男子3年	9	-	-	7	2	-	3	-	-	-	21
	計	22	-	-	12	15	-	17	-	-	-	66
	女子1年	-	-	4	-	12	-	2	-	-	-	18
	女子2年	-	-	6	-	8	-	3	-	-	-	17
	女子3年	-	-	2	-	7	-	9	-	-	-	18
	計	-	-	12	-	27	-	14	-	-	-	53
久美浜中学校	男子1年	3	-	-	6	10	-	5	-	-	4	28
	男子2年	5	-	-	8	14	-	11	-	-	5	43
	男子3年	5	-	-	10	7	-	13	-	-	6	41
	計	13	-	-	24	31	-	29	-	-	15	112
	女子1年	-	-	6	4	8	-	0	-	-	0	18
	女子2年	-	-	3	4	12	-	3	-	-	4	26
	女子3年	-	-	5	3	4	-	6	-	-	1	19
	計	-	-	14	11	24	-	9	-	-	5	63
合計		134	56	100	198	304	118	210	61	44	20	1,245

資料：京丹後市教育委員会



中学校運動部活動

### (3) スポーツ競技の状況

京丹後市体育協会に登録しているスポーツ競技者の状況では、全体の登録数が平成26年度から平成28年度にかけて減少しています。個別の種目では、「エアロビクス」が脱退し、登録者数が減少傾向にあることから体育協会と連携を深めて、競技者ニーズをさらに把握する必要があります。

#### ■京丹後市体育協会（登録者数）

単位：人

種目	平成26年度	平成27年度	平成28年度
陸上	337	364	297
軟式野球	637	601	571
卓球	89	91	93
バレーボール	226	211	220
ソフトボール	634	542	515
ソフトテニス	131	119	115
柔道	12	10	13
剣道	60	59	57
ゲートボール	378	348	322
バドミントン	76	86	76
サッカー	148	152	138
テニス	54	50	46
グラウンド・ゴルフ	806	782	780
バスケットボール	135	139	126
ゴルフ	391	393	395
ボウリング	78	74	77
ソフトバレーボール	154	161	159
空手	30	30	19
スキー	107	107	108
エアロビクス			
アーチェリー	14	12	8
カヌー	78	80	77
弓道	10	12	10
合計	4,585	4,423	4,222

資料：京丹後市体育協会

本市では、平成27年度に京丹後市スポーツ少年団の組織化を図り、全ての青少年スポーツ教室が加入することで、活動実態の把握ができるようになり、種目を越えたつながりへと発展しました。

教室数や参加児童生徒数については、少子化により減少しています。子どものスポーツへの意欲を損なわないよう、人数が減少している種目については、統合も視野に入れて検討すると共に引き続き指導者等の育成を図る必要があります。

■青少年スポーツ教室

単位：教室・人

種目	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	教室数	指導者数	参加児童生徒数	教室数	指導者数	参加児童生徒数	教室数	指導者数	参加児童生徒数
野球	17	105	386	16	102	351	14	100	295
サッカー	9	70	369	9	68	363	9	67	360
バスケットボール	5	22	179	5	54	189	5	32	156
バレーボール	10	45	198	10	46	177	10	46	165
テニス	3	15	34	3	16	34	4	11	89
バドミントン	2	16	36	2	16	37	2	14	28
卓球	1	3	18	1	3	23	1	3	22
陸上	7	44	196	7	46	207	7	46	258
体操	2	18	44	2	18	34	2	18	41
剣道	6	34	93	5	35	84	4	25	81
柔道	2	5	33	2	7	23	2	9	24
空手	5	19	73	5	20	75	5	22	76
レスリング	2	13	36	2	13	37	2	12	30
少林寺拳法	1	3	3	1	3	2	1	4	5
カヌー	1	14	13	1	14	24	1	15	22
スキー	1	2	12	1	2	12	1	1	13
合計	74	428	1,723	72	463	1,672	70	425	1,665

資料：京丹後市教育委員会

■京丹後市における児童・生徒数の推移

単位：人

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
小学校	2,943	2,839	2,731
中学校	1,812	1,727	1,616
合計	4,755	4,566	4,347

資料：京丹後市教育委員会(各年度5月1日現在)

#### (4) ニュースポーツ等の状況

京丹後市スポーツ推進委員の中心的活動であるニュースポーツの推進について、市民アンケートでニーズが高かったウォーキングに、より運動効率を高めるため、ポールを使用するノルディック・ウォーキングを重点種目に普及を進め、今日では、街角でポールをつきながらウォーキングを楽しんでいる方を見かけるようになり、着実に成果が上がっています。また、従来から推進してきた、ビーチボールバレーやファミリーバドミントンなどのニュースポーツも、継続して指導することにより、愛好者も定着し、楽しみながら汗を流すニュースポーツを満喫しています。

##### ■ニュースポーツの活動状況

単位：回・人

種 目	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数	実施回数	参加人数
ノルディック・ウォーキング	57	801	102	1,598	77	1,308
ニュースポーツ	63	1,672	52	1,012	88	1,406
合計	120	2,473	154	2,610	165	2,714

資料：京丹後市教育委員会

#### (5) スポーツ観光事業の活動状況

自然豊かな観光資源を生かしたスポーツイベントの開催により本市の魅力を発信し、交流人口の増加につながる事業を継続することができています。

##### ■スポーツ観光事業に係る活動状況

単位：人

種 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
	参加人数	参加人数	参加人数
歴史街道丹後 100km ウルトラマソン (100km)	2,085	2,261	2,034
歴史街道丹後 100km ウルトラマソン (60km)	985	1,052	1,028
ドラゴンカヌー選手権大会	1,092	936	1,008
ビーチバレー大会		142	173
TANTAN ロングライド	1,298	1,553	1,527
合計	5,460	5,944	5,770

資料：京丹後市商工観光部スポーツ観光・交流課

##### ■合宿誘致に係る社会体育施設の利用状況

単位：人

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
合宿に伴う社会体育施設の利用人数	3,375	1,565	2,394

資料：京丹後市教育委員会

### 3. 公共スポーツ施設利用状況

本市における主な公共スポーツ施設利用回数及び利用人数は、平成26年度から平成28年度にかけて体育施設の増加等に伴い増えています。しかし、老朽施設も多く、同一地域内で増加したスポーツ施設については、利用回数が減少しているスポーツ施設もあります。

#### ■公共スポーツ施設利用状況

単位：回・人

公共施設	平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
峰山途中ヶ丘公園多目的グラウンド	229	13,442	214	14,331	157	12,388
峰山途中ヶ丘公園グラウンド・ゴルフコース	313	14,845	342	16,890	323	14,739
峰山総合公園峰山球場	102	10,500	110	11,690	105	10,280
峰山総合公園サブグラウンド	65	5,310	75	5,710	56	4,260
峰山総合公園テニスコート	1,325	14,500	1,364	14,850	1,341	14,180
五箇体育館					297	5,667
五箇グラウンド					294	7,975
紅葉ヶ丘運動場	289	7,880	223	2,510	28	175
いさなごコート	514	9,803	513	10,501	489	8,229
大宮社会体育館	954	29,348	933	29,637	1,052	45,552
大宮第三体育館	262	5,277	271	5,842	275	5,134
大宮自然運動公園グラウンド	354	11,949	335	9,283	406	21,483
大宮自然運動公園テニスコート	293	2,669	255	2,462	233	3,163
八丁浜シーサイドパーク	115	28,830	119	36,516	81	23,630
網野体育センター（体育室）	748	46,462	472	47,279	385	54,162
網野体育センター（剣道室）	567	9,244	537	8,743	386	17,619
網野体育センター（柔道室）	338	7,391	323	7,735	388	18,833
網野体育センター（テニスコート）	209	2,468	155	2,061	178	2,823
三津体育館	108	1,720	101	1,475	95	1,425
三津グラウンド	195	2,505	99	1,040	75	787
郷体育館	114	2,457	212	4,879	231	6,568
郷グラウンド	51	2,025	71	1,703	65	4,522
橘体育館			298	5,640	33	414
橘グラウンド			17	565	8	834
網野グラウンド	654	23,448	328	16,630	1,061	26,186
網野屋内ゲートボール場	88	1,048	107	1,194	76	999

単位：回・人

公共施設	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
丹後社会体育館	412	9,782	446	9,509	466	10,078
豊栄山村広場（グラウンド）	373	15,021	391	15,371	392	13,992
竹野体育館	204	3,066	159	2,630	164	2,931
竹野グラウンド	218	8,766	38	1,475	87	4,876
宇川体育館	16	2,157	28	1,088	31	1,601
宇川グラウンド	184	5,522	184	6,300	157	5,030
弥栄総合運動公園（弥栄社会体育館）	767	23,011	865	28,342	829	26,630
弥栄総合運動公園グラウンド	311	17,608	289	17,510	272	15,996
弥栄総合運動公園（ゲートボール場）	652	8,640	639	8,452	546	7,371
黒部体育館	50	1,334	88	2,478	174	2,692
黒部グラウンド	210	6,068	212	5,835	216	7,030
野間体育館	17	1,080	21	1,689	19	1,385
野間グラウンド	14	707	6	210	5	753
久美浜中央運動公園（グラウンド）	139	6,445	151	6,320	163	7,302
久美浜中央運動公園（テニスコート）	466	6,090	478	6,274	467	5,803
久美浜中央運動公園（ゲートボール場）	463	9,967	454	8,731	455	9,892
川上体育館	55	1,385	88	2,365	157	3,636
川上グラウンド	95	4,859	63	1,205	67	4,020
海部体育館	214	3,847	229	4,141	222	3,923
海部グラウンド	19	798	10	550	26	1,438
佐濃体育館	88	2,347	165	3,430	235	5,409
佐濃グラウンド	22	1,125	68	1,630	143	3,875
田村体育館	173	3,112	153	2,431	198	2,648
田村グラウンド	55	980	44	682	13	570
湊体育館	46	630	56	658	50	1,286
湊グラウンド	5	390	22	625	10	1,100
合計	13,155	397,858	12,821	399,097	13,682	463,294

資料：京丹後市教育委員会

■社会体育用学校開放施設利用状況

単位：回・人

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
小学校	8,775	235,403	7,459	191,041	8,938	265,882
中学校	3,843	92,652	3,103	67,787	3,241	79,468

資料：京丹後市教育委員会

## 4. スポーツに関する市民意識調査結果

### (1) 調査の目的

この調査は、第2次京丹後市スポーツ推進計画を策定するにあたり、その基礎資料とするために、市民のスポーツの活動状況や、スポーツに対する意向などを把握し、また現状の課題などについて市民に対しアンケート形式で調査を実施しました。

### (2) 調査の項目

- 健康状態について
- スポーツに関するボランティア活動について
- スポーツに関する情報について
- 回答者自身について
- 総括
- 運動やスポーツの実施状況について
- 京丹後市のスポーツ施策について
- 現在の子どもを取り巻く環境について
- 自由意見

### (3) 調査設計

- ・ 調査地域：市内全域
- ・ 調査対象：市内に在住する20歳～79歳の市民
- ・ 標本数：3,000人
- ・ 抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出
- ・ 調査方法：郵送配布、郵送回収による調査
- ・ 調査期間：平成28年10月28日～平成28年12月2日

### (4) 回収状況

調査対象者数	回収件数(率)	有効回収件数(率)
3,000人	1,677件(55.9%)	1,672件(55.7%)

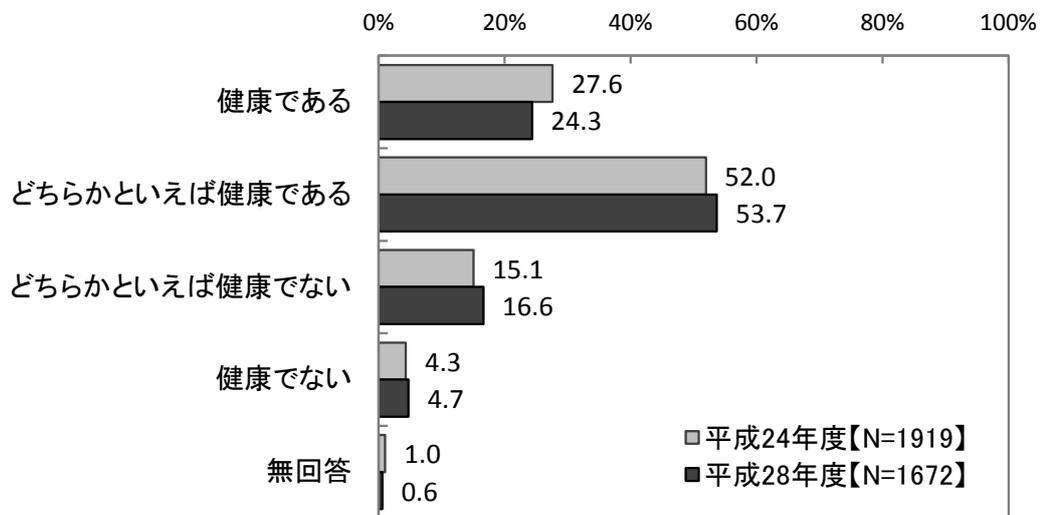
### (5) 調査結果の見方

- 本文中および図中に示した集計結果は、その質問の回答者数を基数(N)として算出し、百分率(%)で示しています。
- 集計結果は小数点第2位で四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%とならない場合があります。
- 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがあります。また、グラフには「MA%」を付記しています。
- 図では、コンピューターの都合上、回答選択を短縮して記載している場合があります。
- 本文中にある「前回調査」とは、平成24年度に実施した「京丹後市スポーツ推進計画見直しに関するアンケート調査」をさします。
- 本文中にある「京都府」とは、京都府が平成24年度に実施した「京都府民のスポーツに関する調査」をさします。

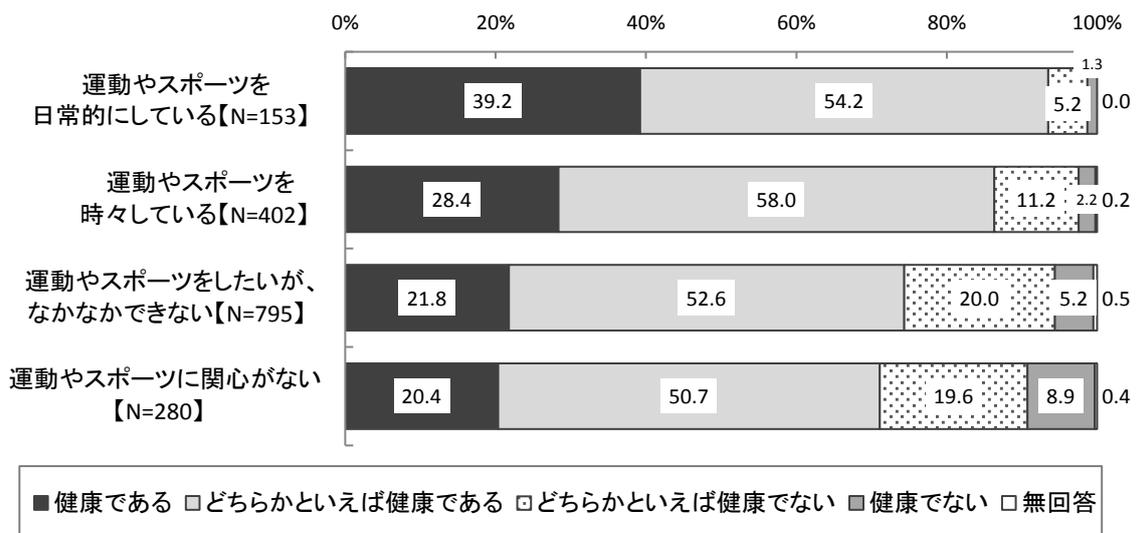
①健康状態について

- 健康について感じていることについては、「どちらかといえば健康である」が53.7%と最も多く、次いで「健康である」が24.3%、「どちらかといえば健康でない」が16.6%、「健康でない」が4.7%で、約8割が健康だと感じています。
- 健康について感じていることを、運動やスポーツの取り組み方別にみると、運動やスポーツをしている頻度が高い人ほど、「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合わせた割合（『健康である』）が多くなっています。
- 前回調査と比較すると『健康である』の割合はわずかに減少しています。

健康について感じていること



健康について感じていること/運動やスポーツの取り組み方

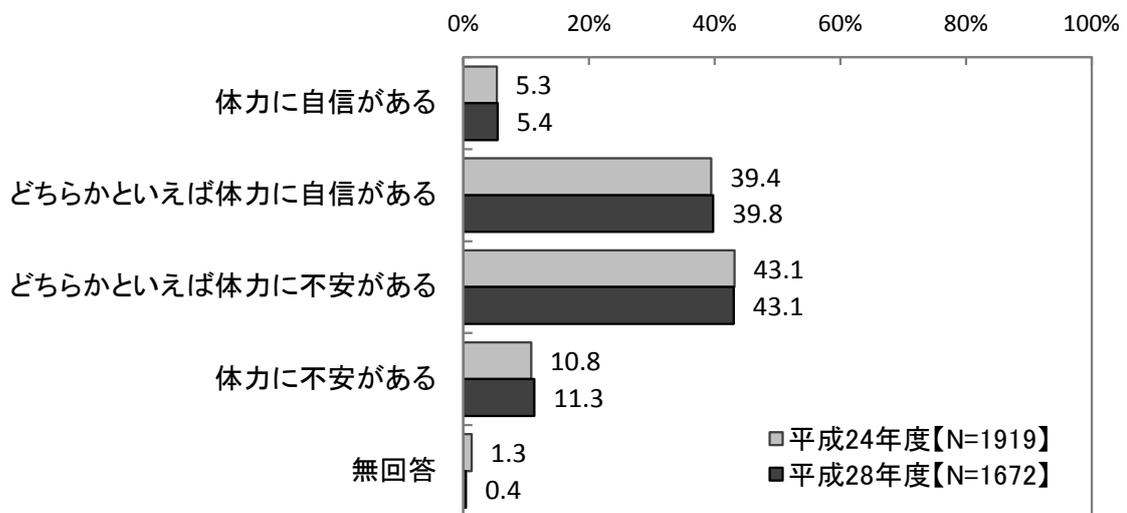


○体力について感じていることについては、「どちらかといえば体力に不安がある」が43.1%と最も多く、次いで「どちらかといえば体力に自信がある」が39.8%、「体力に不安がある」が11.3%、「体力に自信がある」が5.4%となり、体力不足を感じていることがうかがえます。

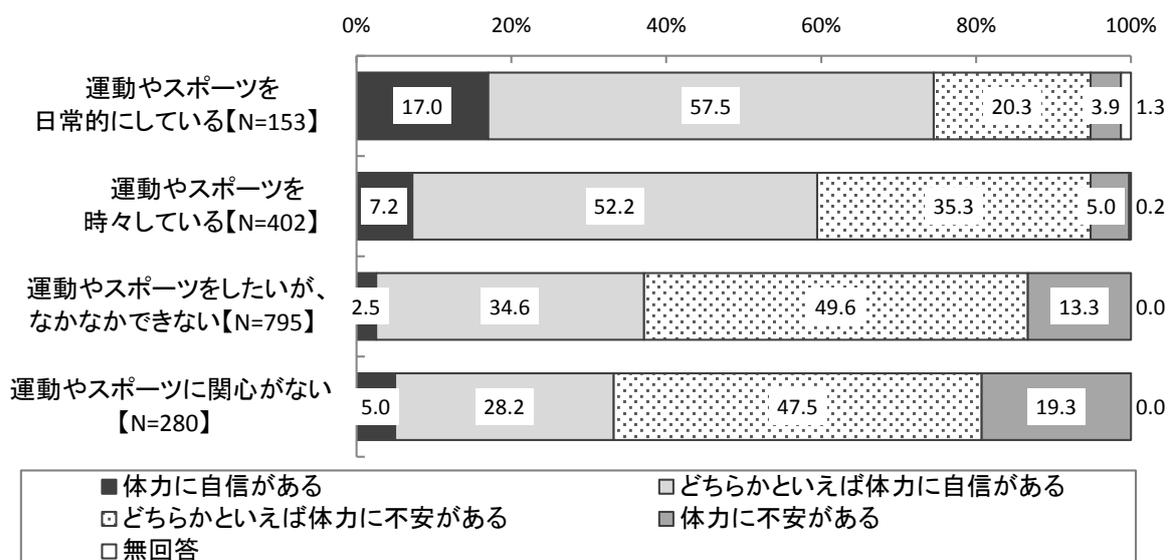
○体力について感じていることを、運動やスポーツの取り組み方別に見ると、運動やスポーツをしている頻度が高い人ほど、「体力に自信がある」と「どちらかといえば体力に自信がある」を合わせた割合（『健康である』）が多くなっています。

●前回調査と比較すると『体力に自信がある』はほぼ同じ割合となっています。

### 体力について感じていること

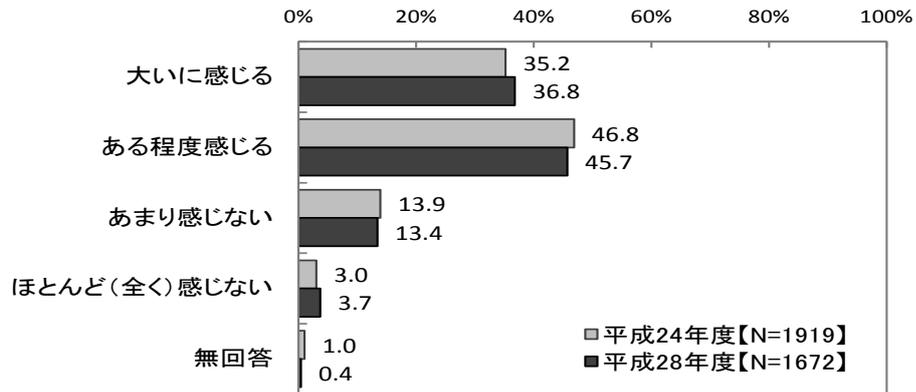


### 体力について感じていること/運動やスポーツの取り組み方

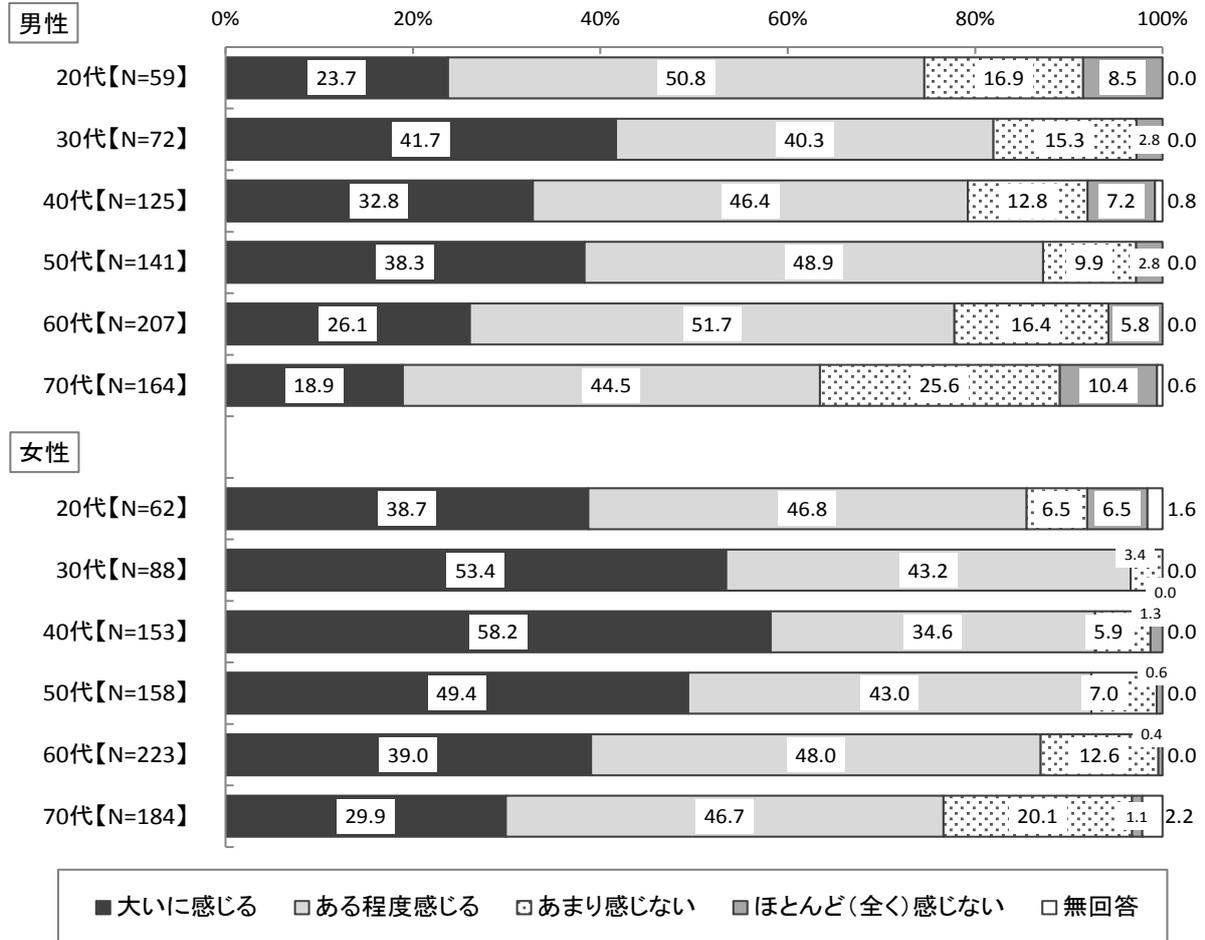


- 運動不足を感じているかについては、「ある程度感じる」が45.7%と最も多く、次いで「大いに感じる」が36.8%、「あまり感じない」が13.4%、「ほとんど(全く)感じない」が3.7%となっています。
- 運動不足を感じていることを、性・年代別にみると、男女ともに「大いに感じる」は30代～50代に多く、特に女性の30代～50代は、約5～6割が運動不足を実感しています。
- 前回調査と比較すると、「大いに感じる」はわずかに増加しています。

### 運動不足を感じているか

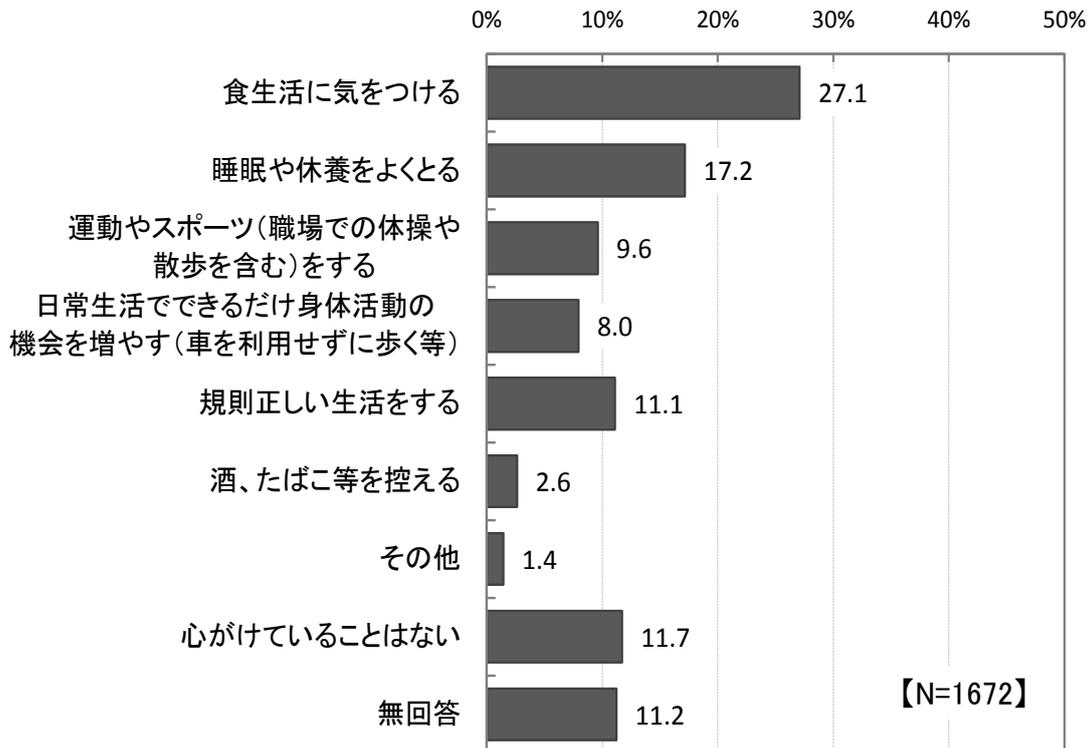


### 運動不足を感じているか/性・年代別

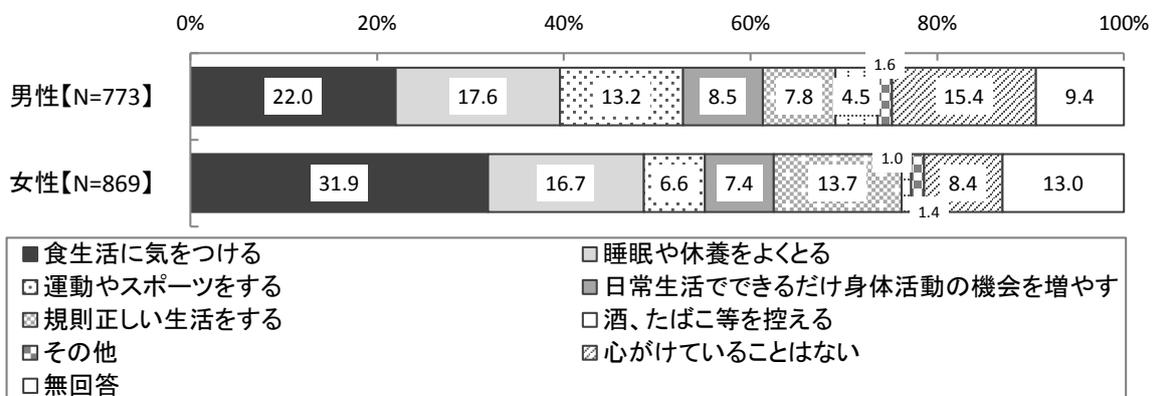


○健康管理や体力の保持増進のために、心がけていることは、「食生活に気をつける」が27.1%と最も多く、次いで「睡眠や休養をよくとる」が17.2%、「心がけていることはない」が11.7%で、「運動やスポーツをする」は9.6%にとどまり、健康管理や体力の保持増進のためのスポーツとしての認知度は低いことがうかがえます。

### 健康管理や体力の保持増進のために心がけていること

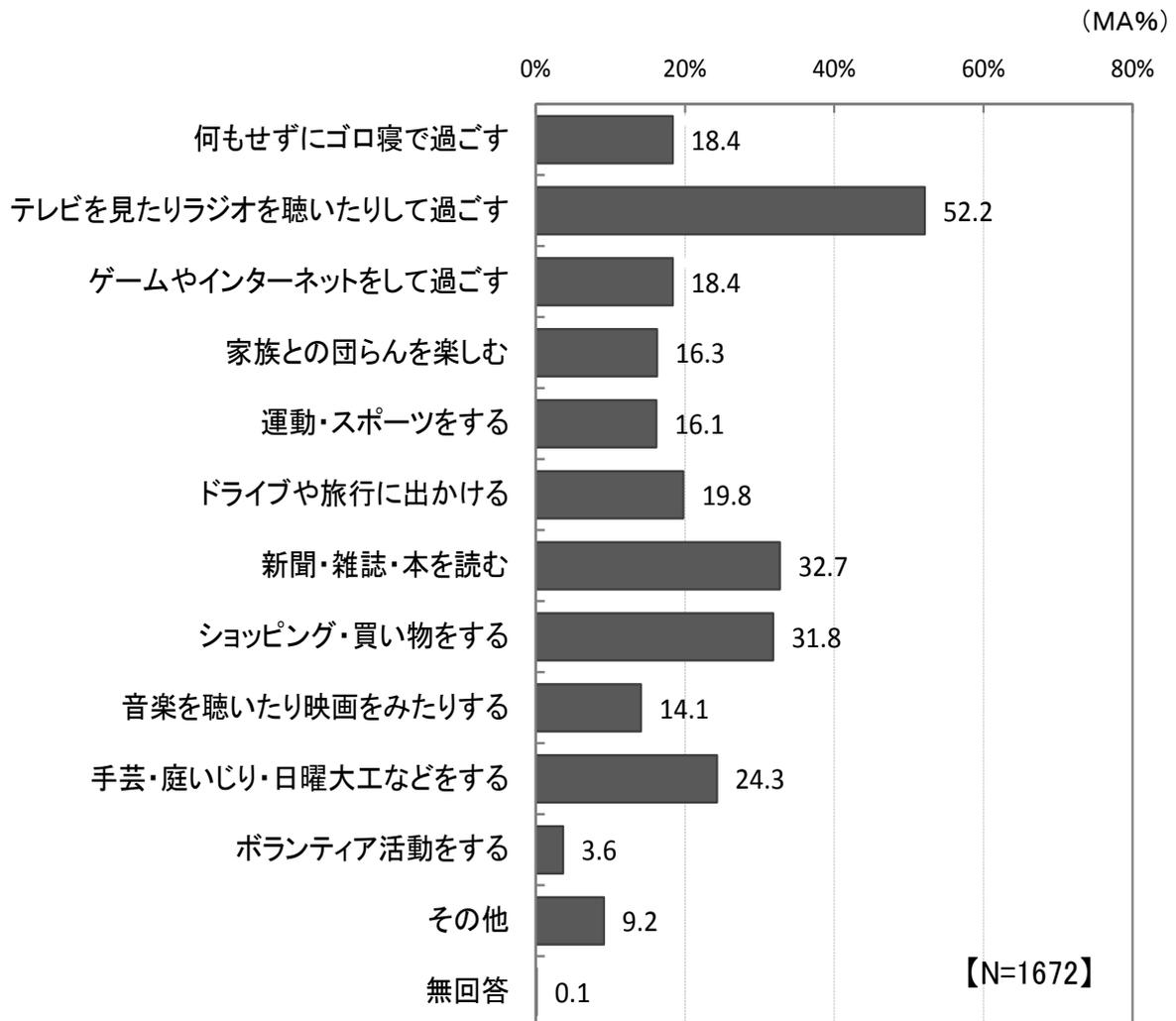


### 健康管理や体力の保持増進のために心がけていること/性別



○好きなことができる時間の過ごし方は、「テレビを見たりラジオを聴いたりして過ごす」が 52.2%と最も多く、次いで「新聞・雑誌・本を読む」が 32.7%、「ショッピング・買い物をする」が 31.8%などで「運動・スポーツをする」は 16.1%と低い数値となっています。

### 好きなことができる時間の過ごし方

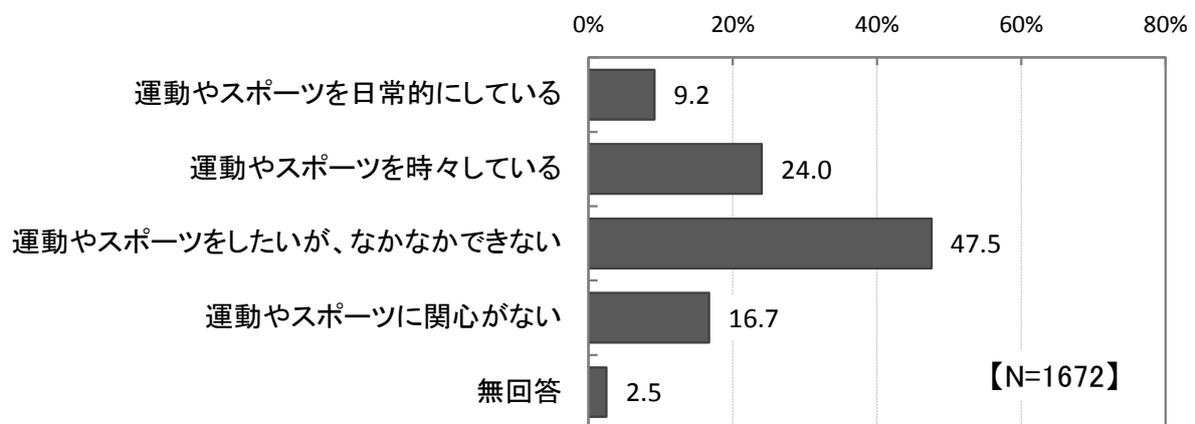


## ②運動やスポーツの実施状況について

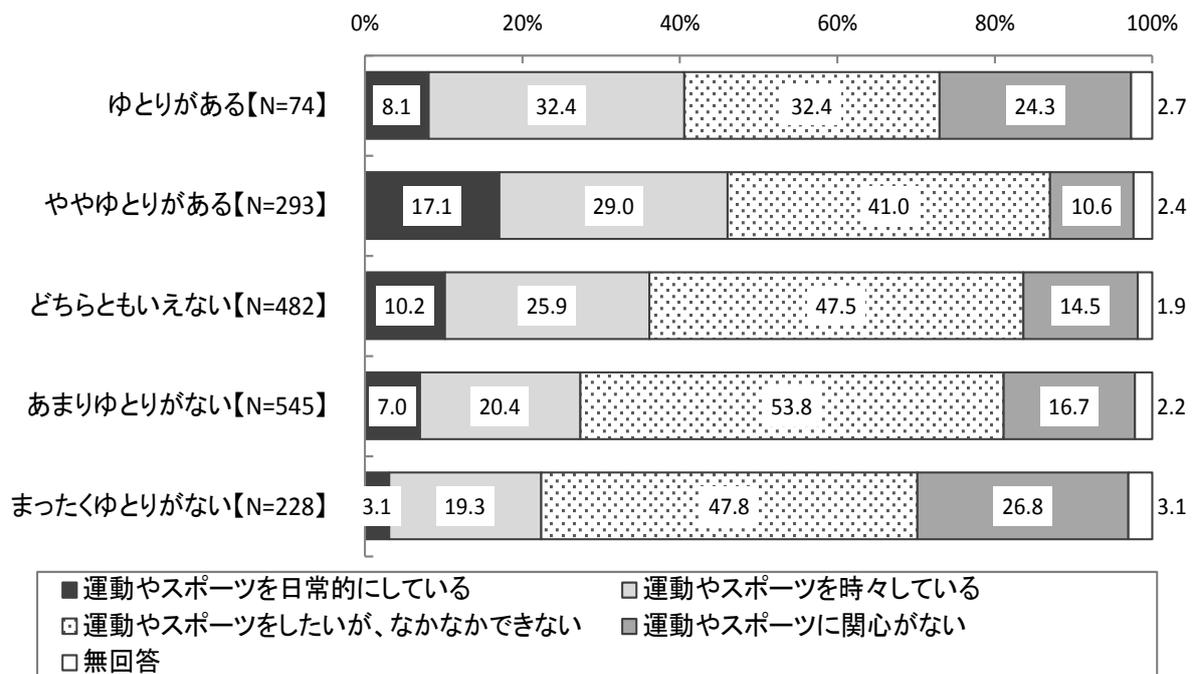
○運動やスポーツの取り組み方は、「運動やスポーツをしたいが、なかなかできない」が47.5%と最も多く、「運動やスポーツに関心がない」と合わせると約7割弱が運動やスポーツに取り組めていないことが確認できます。

○運動やスポーツの取り組み方を暮らし向き別にみると、おおむね暮らし向きがよくない人ほど運動やスポーツに取り組む余裕が無いことがわかりました。

### 運動やスポーツの取り組み方



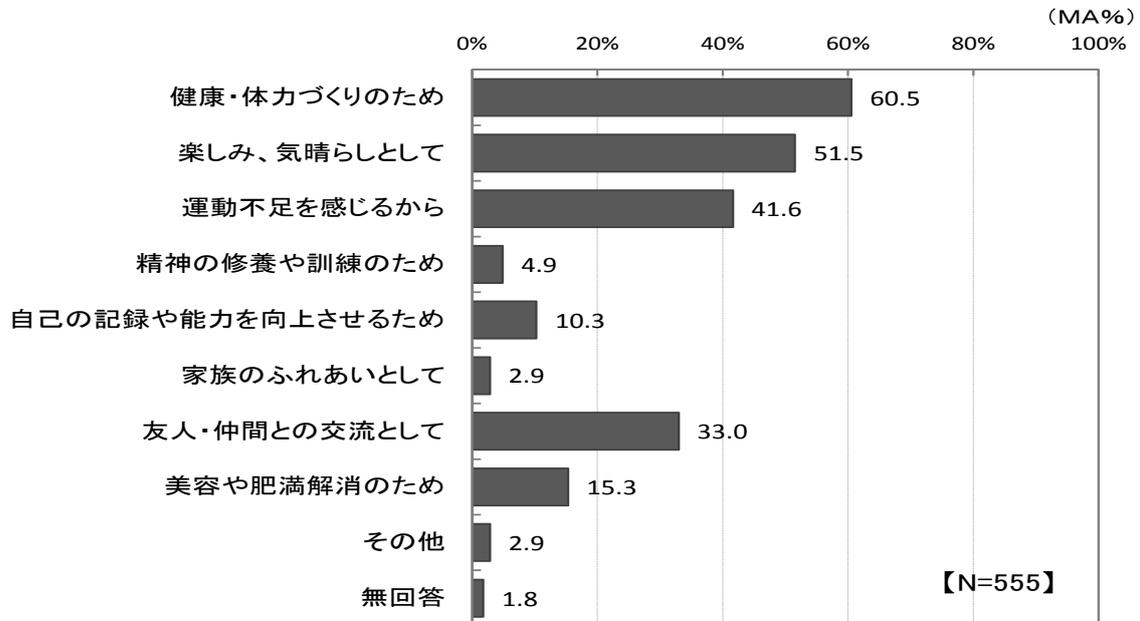
### 運動やスポーツの取り組み方/暮らし向き別



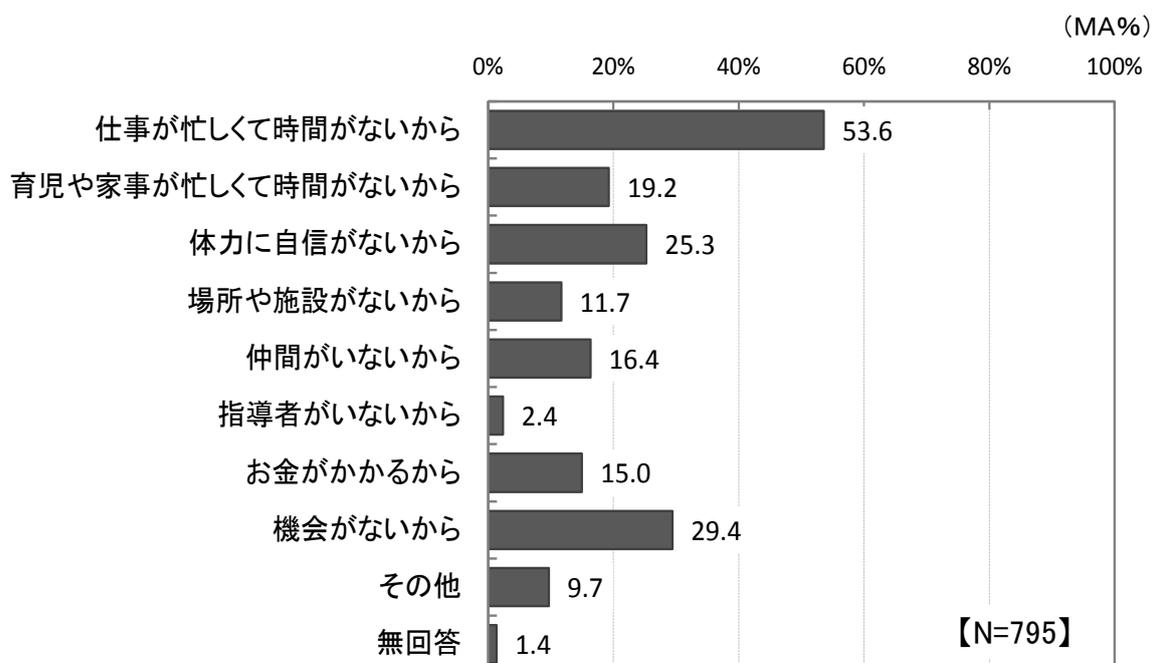
○運動やスポーツをしている理由は、「健康・体力づくりのため」が60.5%と最も多く、次いで「楽しみ、気晴らしとして」が51.5%、「運動不足を感じるから」が41.6%などとなっています。

○運動やスポーツをしたいが、できない理由は、「仕事が忙しくて時間がないから」が53.6%と最も多く、次いで「機会がないから」が29.4%、「体力に自信がないから」が25.3%などとなっています。

### 運動やスポーツを行なっている方に理由を聞きました

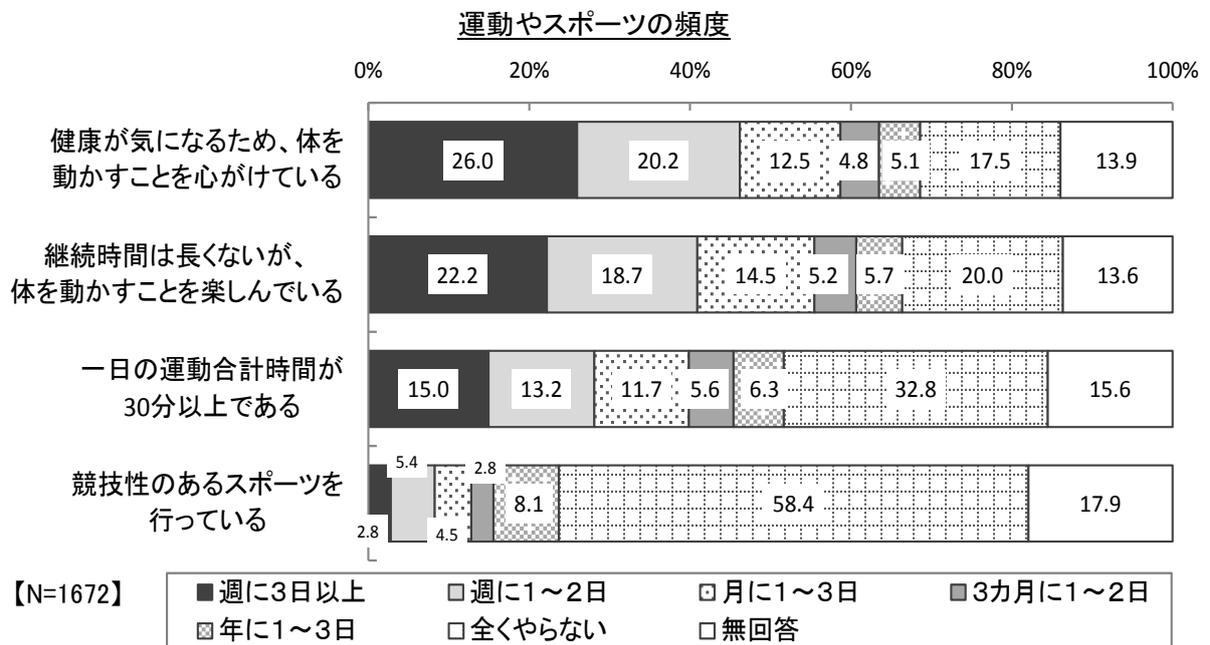


### 運動やスポーツができない方に理由を聞きました



- 健康が気になるため、体を動かすことを心がけている頻度は、「週3日以上」が26.0%と最も多くなっています。「週3日以上」と「週に1～2日」を合わせた割合（『週に1日以上』）は46.2%となっています。
- 継続時間は長くないが、体を動かすことを楽しんでいる頻度は、「週3日以上」が22.2%と最も多くなっています。「週3日以上」と「週に1～2日」を合わせた割合（『週に1日以上』）は40.9%となっています。
- 一日の運動合計時間が30分以上である頻度は、「全くやらない」が32.8%と最も多くなっています。「週3日以上」と「週に1～2日」を合わせた割合（『週に1日以上』）は28.2%となっています。
- 競技性のあるスポーツを行なっている頻度は、「全くやらない」が58.4%と最も多くなっています。「週3日以上」と「週に1～2日」を合わせた割合（『週に1日以上』）は8.2%となっています。

※京都府の計画と合わせるため、週1回以上のスポーツ実施率は「継続時間は長くないが体を動かすことを楽しんでいる」の「週3日以上」と「週に1～2日」を合計した40.9%を採用しています。



**健康が気になるため、体を動かすことを心がけている**

【具体例】

- ・通勤や買い物などで努めて歩いたり、自転車に乗る
- ・階段での上り下りを心がける
- ・歩くスピードを速めたり、歩幅を意識的に広げる
- ・コンピューターを使った運動やスポーツのゲームで体を動かす

**継続時間は長くないが、体を動かすことを楽しんでいる**

【具体例】

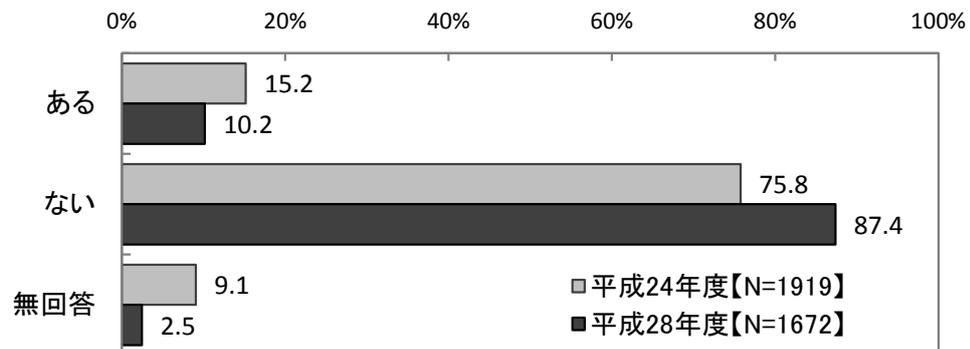
- ・体操、ストレッチ、散歩、短時間のウォーキング、ジョギング
- ・キャッチボール、ボールリフティング、ゴルフの素振りや打ちっぱなし
- ・レクリエーションなど

### ③スポーツに関するボランティア活動について

○スポーツに関するボランティア活動への参加状況は、「ある」が10.2%、「ない」が87.4%となっています。

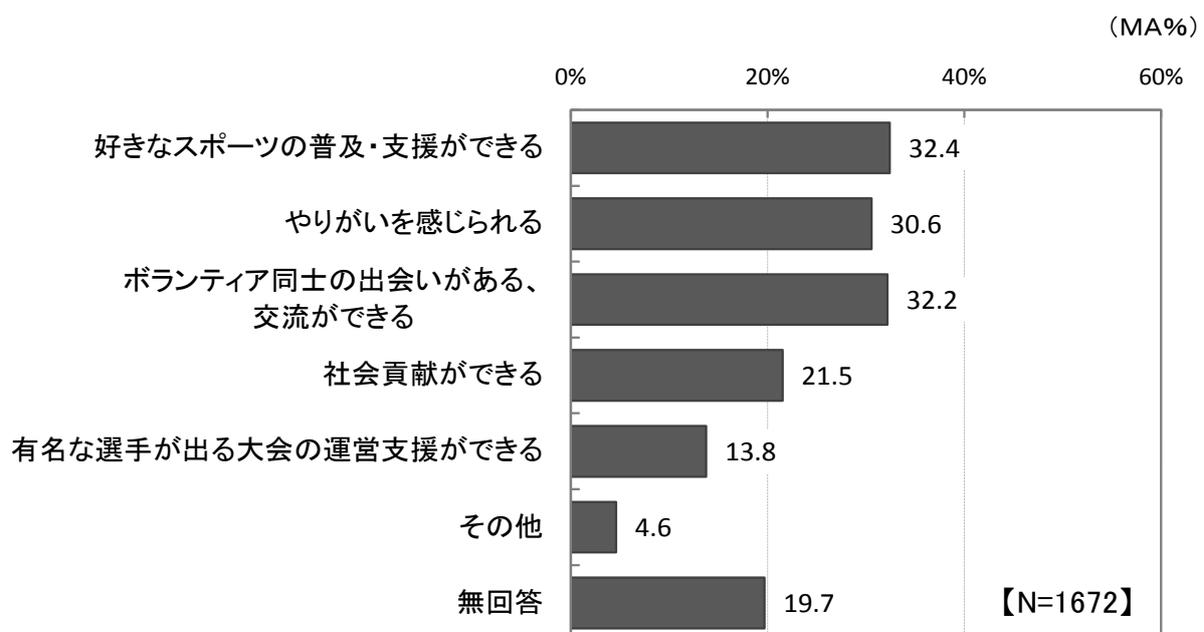
●アンケート調査による前回調査との比較では、「ある」が5ポイント減少しています。

スポーツに関するボランティア活動への参加状況



○スポーツボランティア登録者を増やすために必要と思うきっかけや動機は、「好きなスポーツの普及・支援ができる」が32.4%と最も多く、次いで「ボランティア同士の出会いがある、交流ができる」が32.2%、「やりがいを感じられる」が30.6%などとなっています。

スポーツボランティア登録者を増やすために必要と思うきっかけや動機

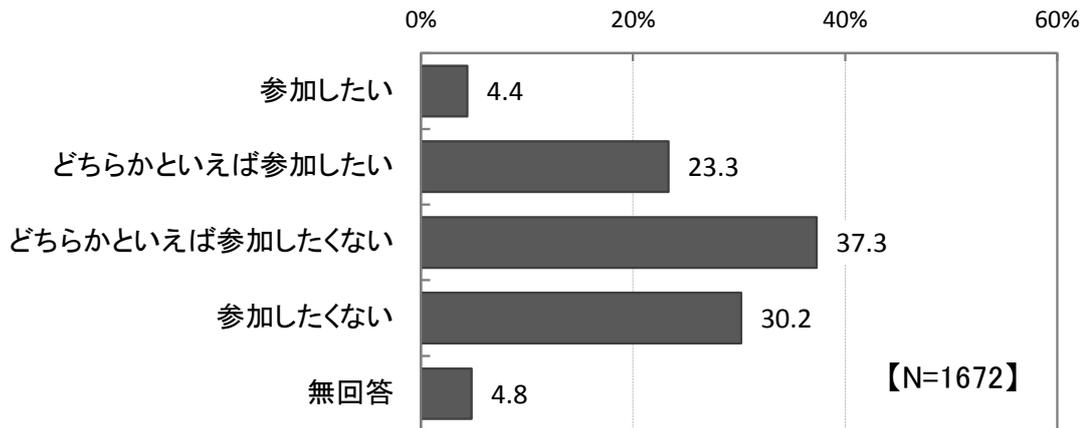


○今後、スポーツに関するボランティア活動への参加意向は、「どちらかといえば参加したくない」が37.3%と最も多く、次いで「参加したくない」が30.2%で、スポーツボランティアに関心が薄いことがうかがえます。

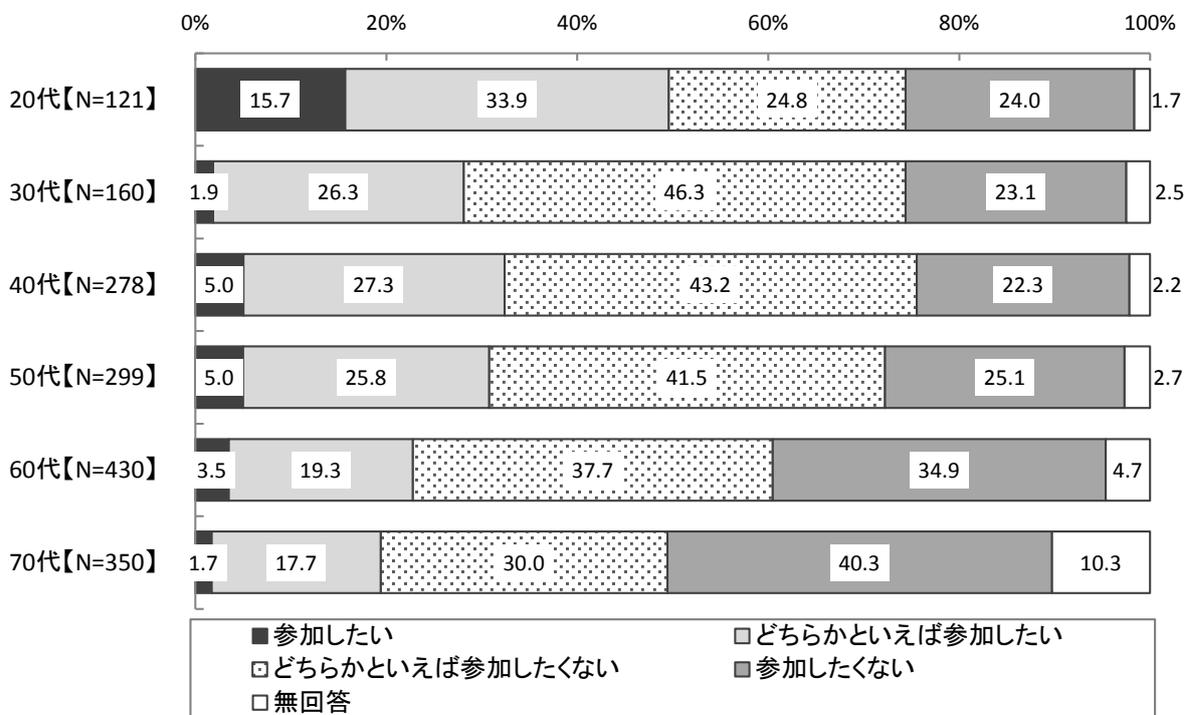
○「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせた割合は、27.7%となっています。

○スポーツに関するボランティア活動への参加意向を、年代別にみると、「参加したい」は、おおむね年代が低いほど多く、特に20代では「参加したい」が49.6%を占めています。

スポーツに関するボランティア活動への参加意向



スポーツに関するボランティア活動への参加意向/年代別

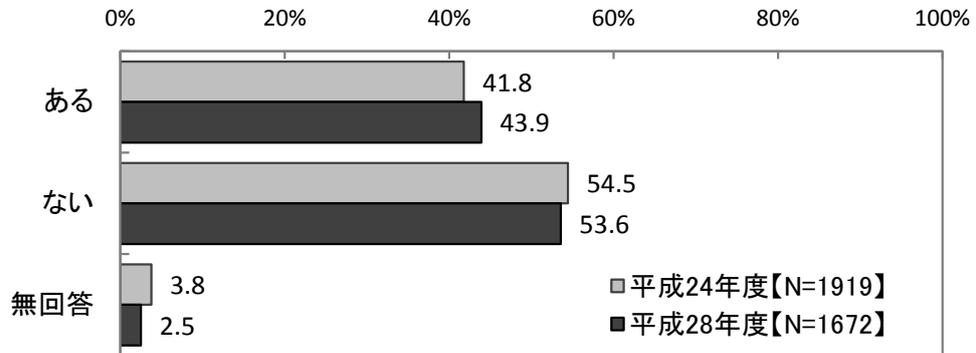


#### ④京丹後市のスポーツ施策について

○京丹後市のスポーツ施設について利用経験の有無を聞いたところ、「ある」が43.9%で、「ない」が53.6%となっています。

●前回調査と比較すると、「ある」はやや増加しています。

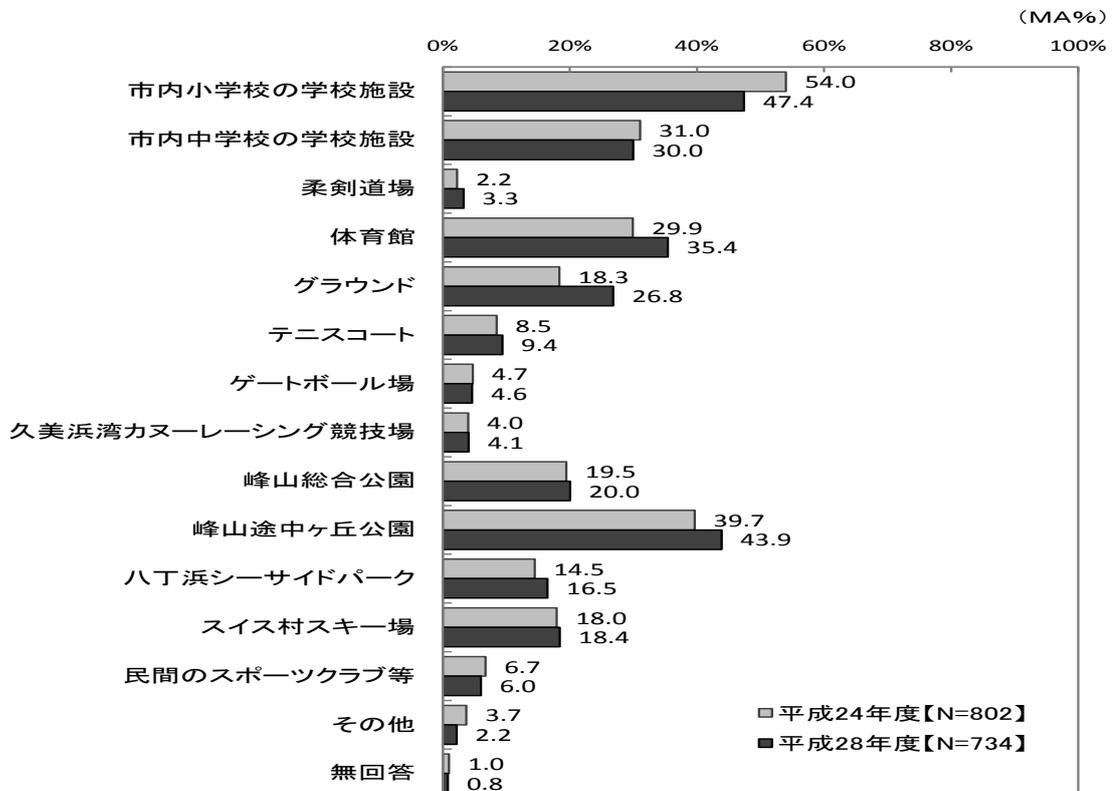
京丹後市のスポーツ施設の利用の有無



○使用したことのある京丹後市の施設等は、「市内小学校の学校施設」が47.4%と最も多く、次いで「峰山途中ヶ丘公園」が43.9%、「体育館」が35.4%となっています。

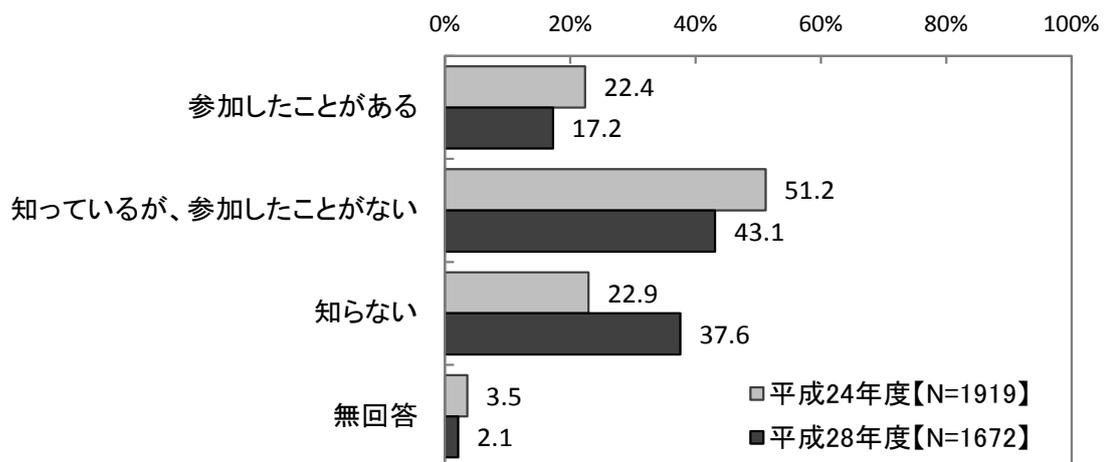
●前回調査と比較すると、主に「市内小学校の学校施設」が減少しています。

使用したことのある京丹後市の施設等

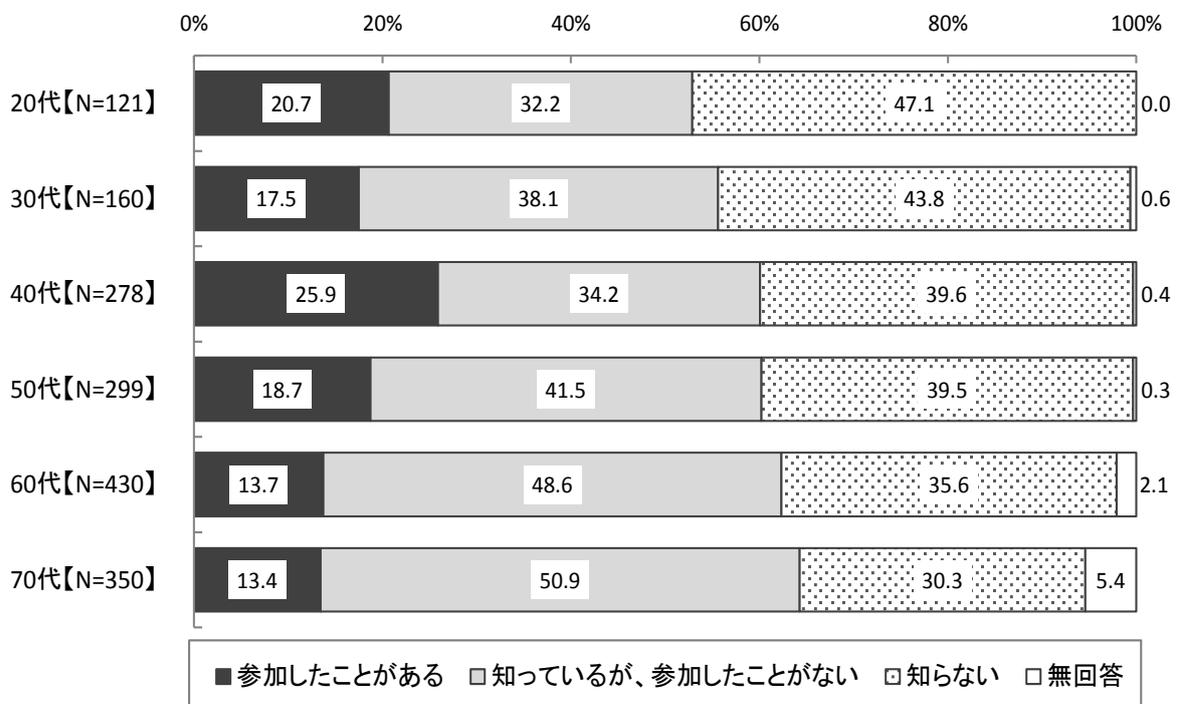


- 京丹後市が主催するスポーツイベントへの参加状況は、「知っているが、参加したことがない」が43.1%と最も多く、次いで「知らない」が37.6%、「参加したことがある」が17.2%となっています。
- 年代別にみると、「参加したことがある」は50代以下では18.7%、60代以上では13.7%となっています。「知らない」は年代が低いほど多くなっています。
- 居住地域別にみると、「参加したことがある」は峰山町が最も多くなっています。
- 前回調査と比較すると「参加したことがある」「知っているが、参加したことがない」が減少し、「知らない」が大きく増加しています。

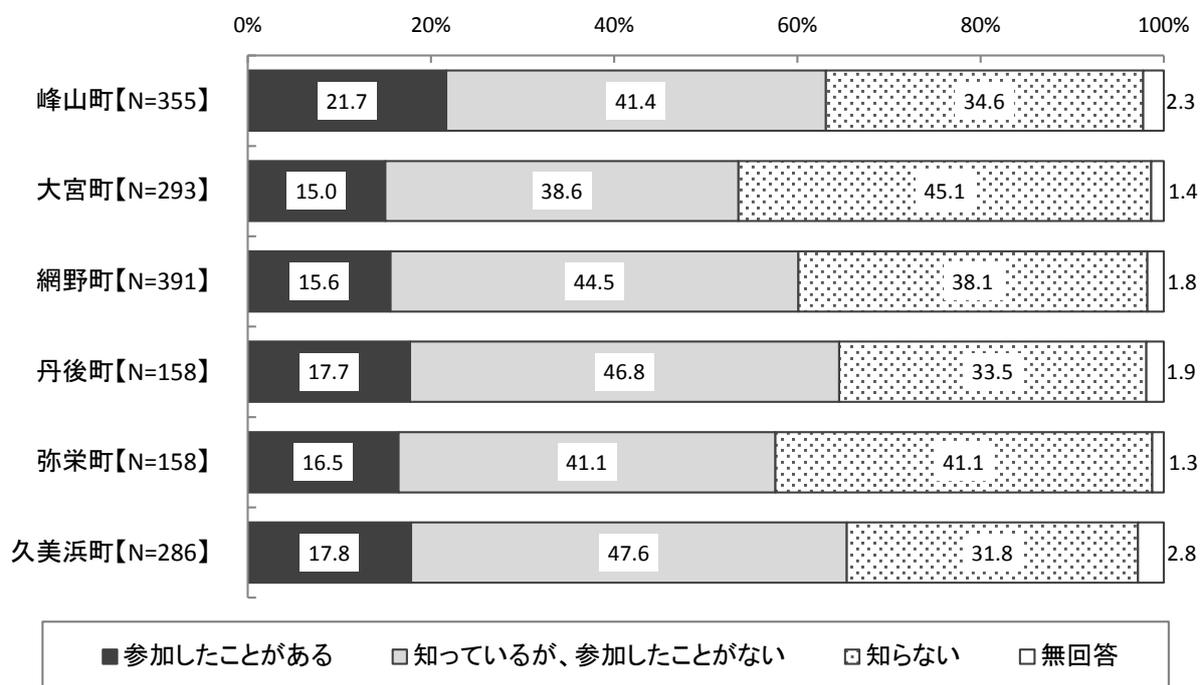
京丹後市が主催するスポーツイベントへの参加状況



京丹後市が主催するスポーツイベントへの参加状況/年代別

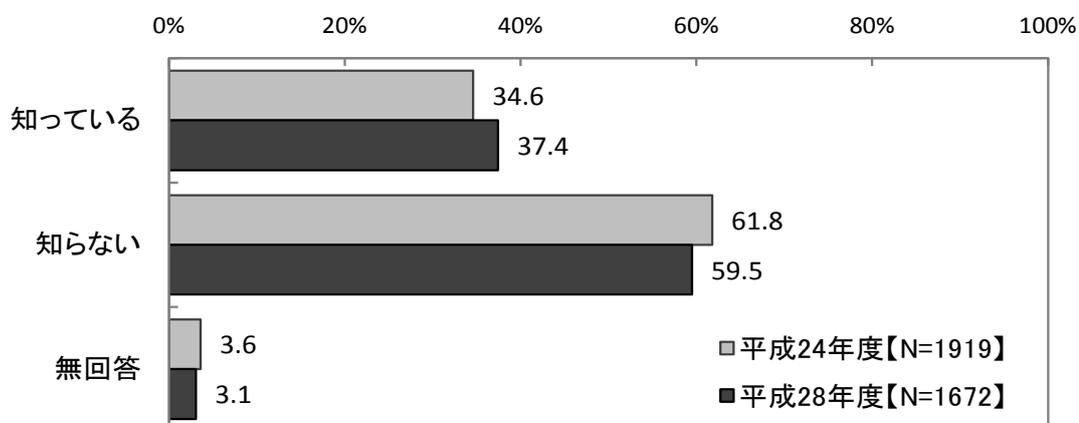


### 京丹後市が主催するスポーツイベントへの参加状況/居住地域別



- 京丹後市のスポーツ推進委員の認知度については、「知っている」が37.4%、「知らない」が59.5%となっています。
- 年代別にみると30代以下は「知らない」が7割を超えており、若年層への認知活動が不足していることがうかがえます。
- 前回調査と比較すると「知っている」がやや増加しています。

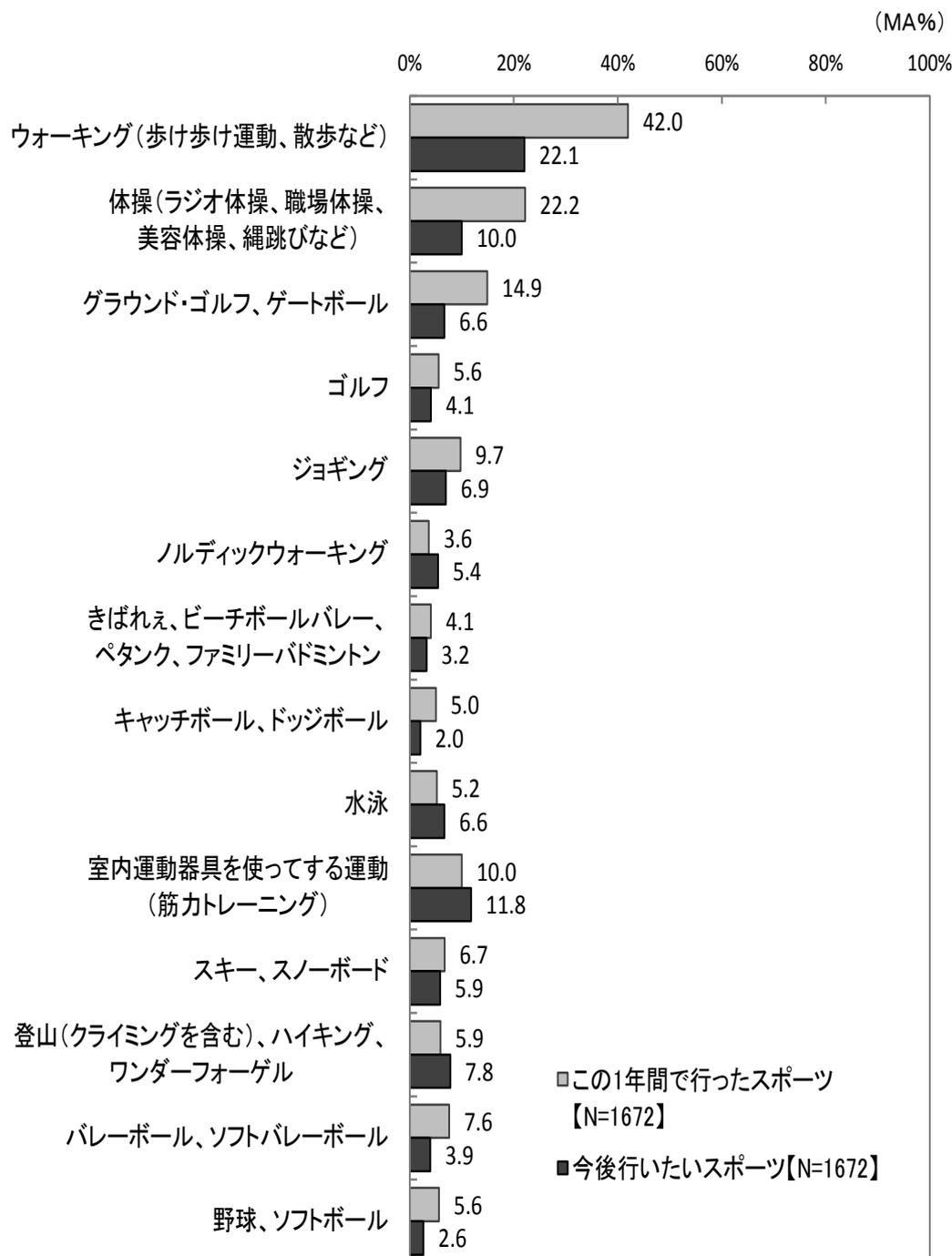
### スポーツ推進委員の認知度

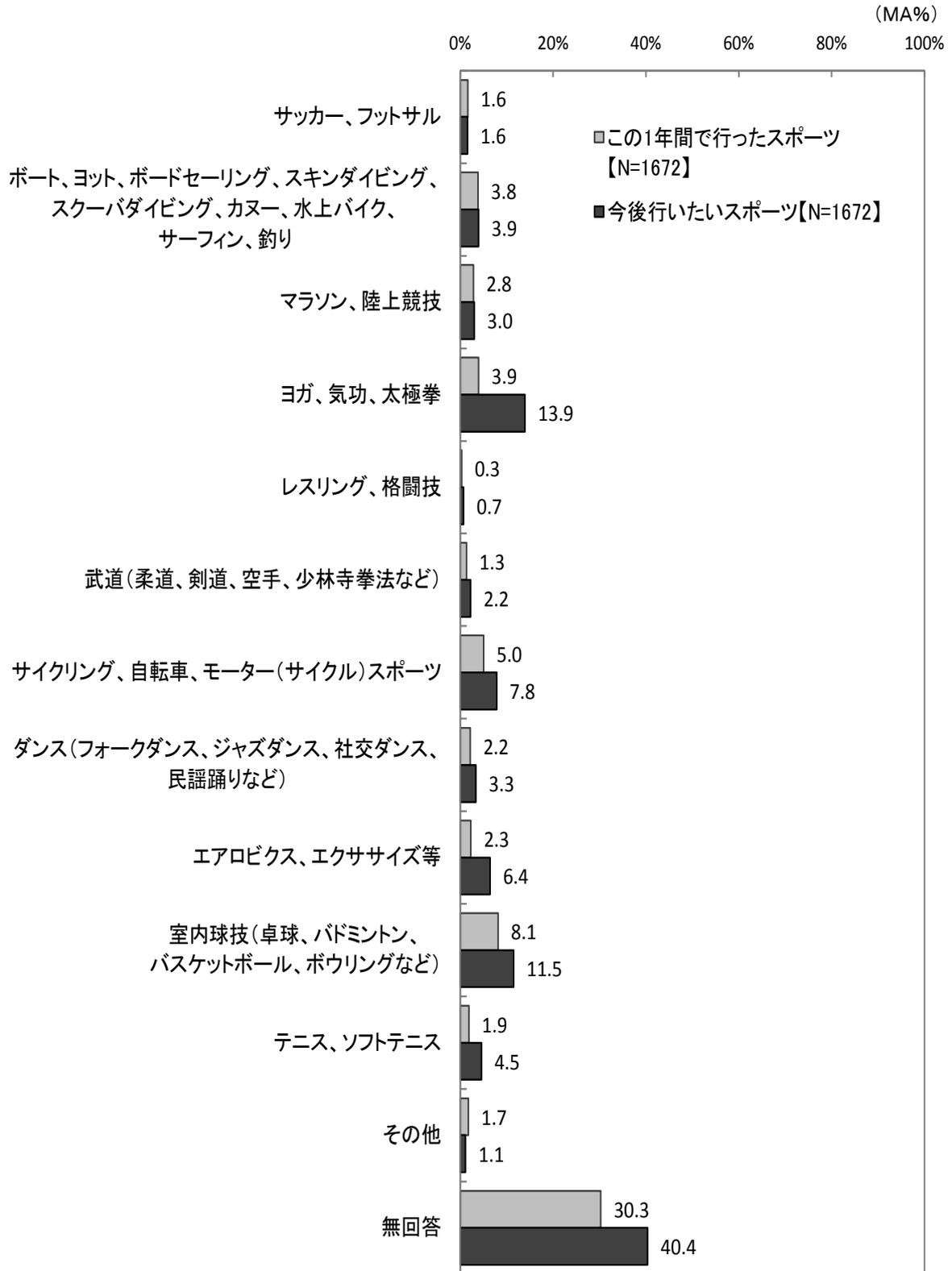


○この1年間で行った運動やスポーツは、「ウォーキング」が42.0%と最も多く、次いで「体操」が22.2%、「グラウンド・ゴルフ、ゲートボール」が14.9%などとなっています。

○今後行いたい運動やスポーツは、「ウォーキング」が22.1%と最も多く、次いで「ヨガ、気功、太極拳」が13.9%、「室内運動器具を使ってする運動」が11.8%などとなっています。

この1年間で行った運動やスポーツおよび今後行いたい運動やスポーツ

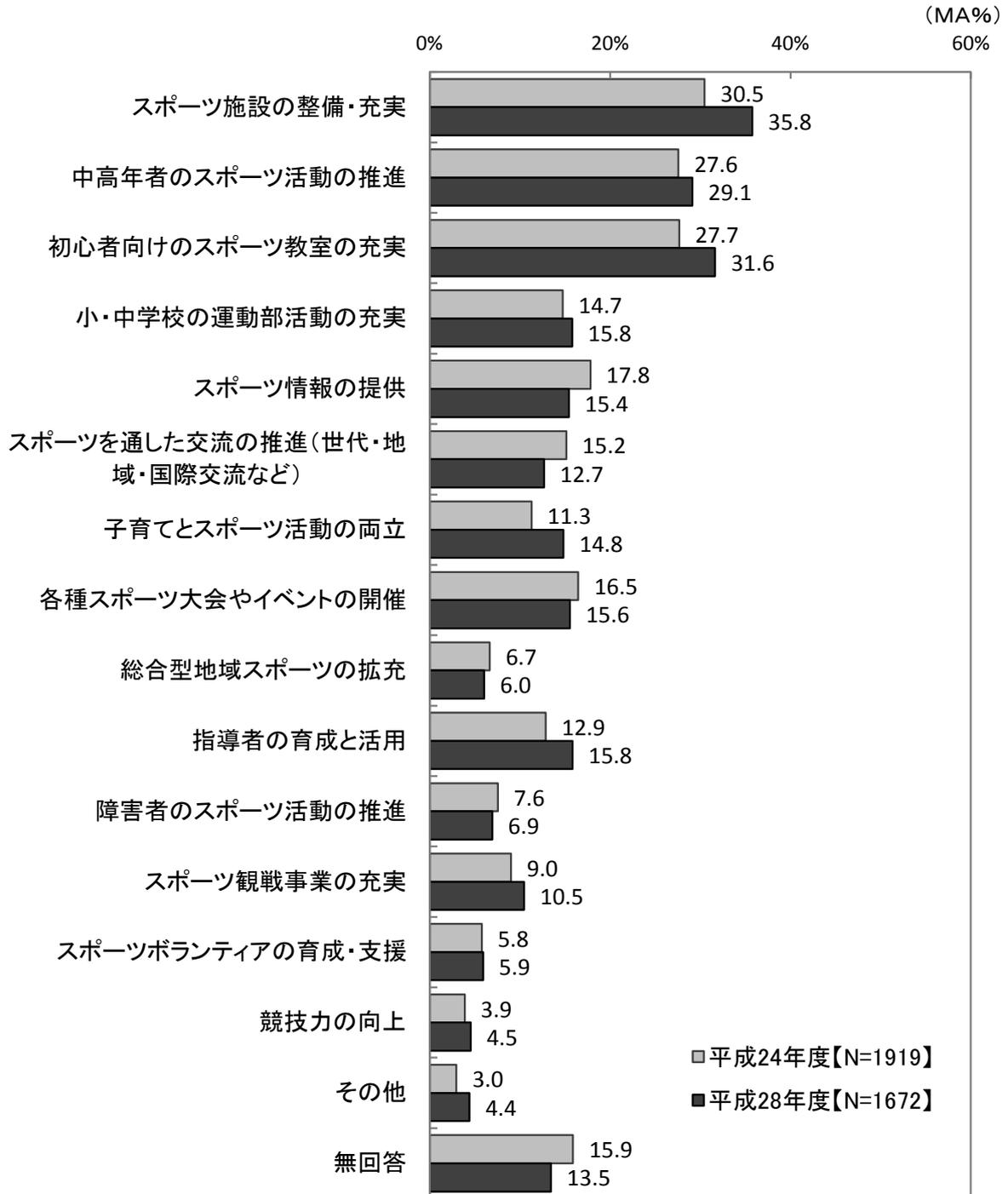




○京丹後市のスポーツをもっと振興・発展させるために京丹後市に求めることは、「スポーツ施設の整備・充実」が35.8%と最も多く、次いで「初心者向けのスポーツ教室の充実」31.6%、「中高年者のスポーツ活動の推進」が29.1%などとなっています。

●前回調査と比較しても「スポーツ施設の整備・充実」に寄せられる期待が一番増加しています。

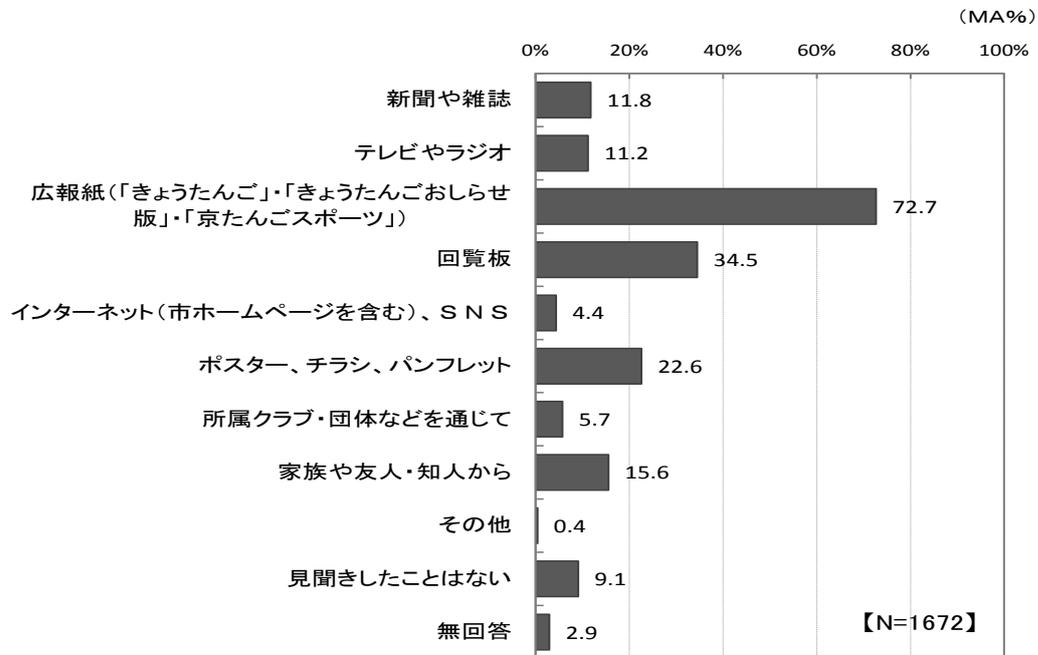
スポーツの振興・発展のために、京丹後市に求めること



### ⑤スポーツに関する情報について

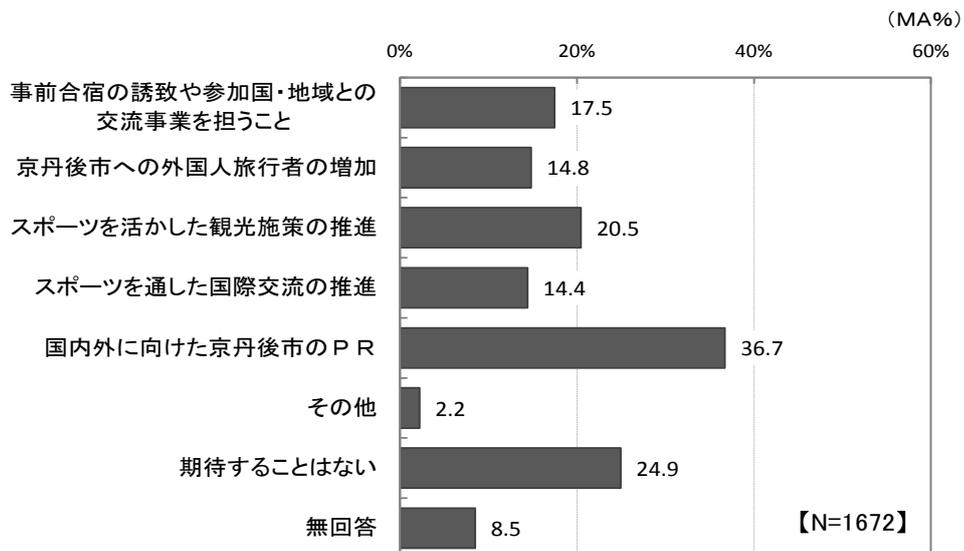
○京丹後市のスポーツに関する情報を見聞きしたことがある媒体は、「広報紙」が圧倒的に多く、72.7%で、次に「回覧板」が34.5%、「ポスター、チラシ、パンフレット」が22.6%などとなっています。

#### 京丹後市のスポーツに関する情報を見聞きしたことがある媒体



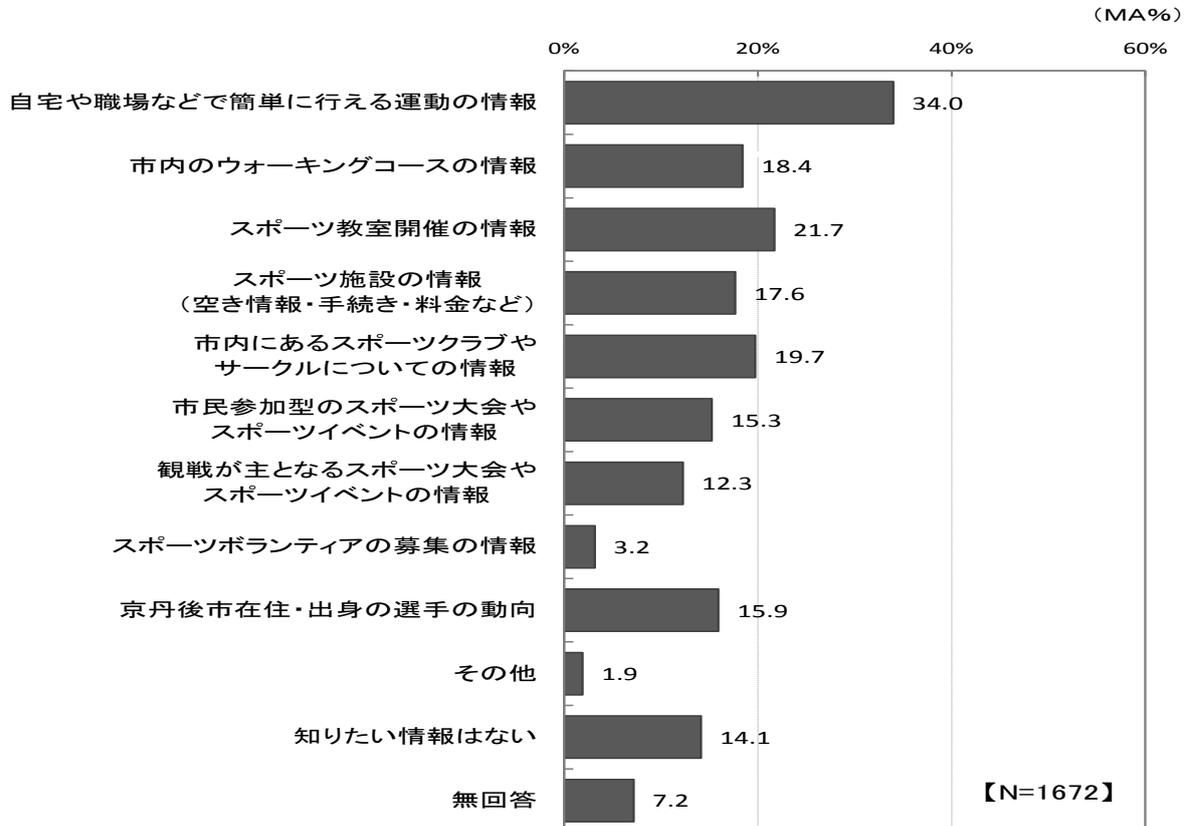
○東京オリンピック・パラリンピック開催にあたり、京丹後市に期待することは、「国内外に向けた京丹後市のPR」が36.7%と最も多く、次いで「期待することはない」が24.9%、「スポーツを活かした観光施策の推進」が20.5%などとなっています。

#### 東京オリパラ開催に当たり京丹後市に期待すること



○スポーツに関して知りたい情報は、「自宅や職場で簡単に行える運動の情報」が34.0%と最も多く、次いで「スポーツ教室開催の情報」が21.7%、「市内にあるスポーツクラブやサークルについての情報」が19.7%などとなっています。

### スポーツに関して知りたい情報



### ⑥現在の子どもを取り巻く環境について

○親世代の子ども時代と比較した現在の子どものスポーツ環境については、「どちらかといえば悪くなった」が34.0%と最も多く、次いで「どちらかといえばよくなった」が20.2%、「悪くなった」が19.0%などとなっています。

### 親世代の子ども時代と比較した現在の子どものスポーツ等の環境



## ○総括

「自分は健康である」と感じていたり、体力に自信がある人の割合は、運動やスポーツをしている頻度が高い人ほど多くなっており、体を動かすことが健康状態のよさにつながっていることがうかがえます。

また、健康管理や体力の保持増進のために心がけていることとしては、「食生活」を挙げる回答が多く、「運動やスポーツ」は少数派で、特に女性は「運動やスポーツ」による健康管理等を行っている人が少ないことがわかります。

一方、運動不足を感じているのは男女とも 30～50 代の主に就労や子育て世代に見受けられ、運動やスポーツに取り組めない理由として「仕事が忙しい」「家事や育児が忙しくて時間がない」が大半を占めています。

さらに、スポーツ推進委員の認知度が低いことや、スポーツボランティアへの関心が低いことなど、スポーツ活動を取り巻く環境にも課題が多くみられます。

前回のアンケート結果と比較してみると、健康や体力についての質問では、ほとんど変わらない結果となり、空いた時間を活用して、スポーツを楽しむ人が少ないことがわかりました。

また、スポーツの振興・発展のために求められていることとして、前回に引き続きスポーツ施設の整備・充実が一番に挙げられています。

今後、このような課題を改善していくために、子どもの頃からスポーツに親しむことのほか、気軽に参加できる活動やイベントの推進、子どもから高齢者まで多くの市民の方に生涯を通して運動やスポーツを継続することができるスポーツ環境の整備、年齢や運動の有無を問わず多くの人にスポーツに興味を持ってもらうなど、様々な角度からスポーツ活動を推進していくことが必要と考えられます。

## 5. 第1次スポーツ推進計画の評価とまとめ

生涯にわたってスポーツに取り組むためには、世代ごとの課題を把握し、必要な取り組みについて整理する必要があります。また、誰もが気軽にスポーツができる環境づくりに向けて、これまでの京丹後市におけるスポーツ施策の展開を踏まえ、アンケート調査結果から市民意向を検証し、スポーツを支える人材、施設の整備・充実、情報発信など、スポーツ環境の整備に向けた取り組みを推進し、スポーツのまちづくりの実現を目指します。

### (1) これまでのスポーツ施策の評価

本市では、平成20年3月に策定した「京丹後市スポーツ振興計画」を見直し、平成26年3月に「第1次京丹後市スポーツ推進計画」を策定しました。

この計画の中で、「ライフステージに応じたスポーツ施策の推進」「スポーツ競技力の向上」「スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実」「スポーツを支える基盤の整備と交流の促進」を柱に目標達成に向けて各施策の展開を図ってきました。

#### ①「ライフステージに応じたスポーツ施策の推進」

多くの市民が、日常生活の中で、子どもから大人までそれぞれの志向に応じたスポーツライフを楽しんでいます。ジョギング等の軽スポーツから、トップを目標にしての競技スポーツ等、様々な形で体を動かしています。

本市における成人の週1回以上のスポーツ実施率は、21.6%から40.9%へ上昇しましたが、依然として目標を下回った状況です。

各地域でスポーツに慣れ親しんでいただくための取り組みとして、ノルディック・ウォーキングやニュースポーツ教室等の講習会を開催し、少しずつですが、日常的なスポーツ行動に結びつきつつあります。

全国平均よりも高齢化の進んでいる本市ですが、老若男女を問わず、健康・体力の維持増進につながるスポーツ施策を進めることで、運動やスポーツの愛好者が増加しました。

#### ②「スポーツ競技力の向上」

体育協会を中心に関係機関との連携のもと、施策の必要に応じた指導者の育成と交流機会の提供に努めるとともに、2,000人にもおよぶ選手が集い16種目21競技で競い合う、京丹後市総合体育大会を開催することで、各競技の継続と競技力の向上が図れましたが、目標としていた京都府民総合体育大会入賞競技数は達成できませんでした。

さらに、スポーツ少年団等において、競技力向上に向けた講習会を実施していますが、ジュニアの指導が中心であり、中・高校生及び指導者の研修機会の拡充には至っていません。

### ③「スポーツ・レクリエーション施設等の整備充実」

本市の学校再配置に伴い学校施設から社会体育施設へ移行したことにより、社会体育施設が増えたこともあり、公共スポーツ施設の利用回数は目標を達成しましたが、経年劣化により、改修が必要な施設もあるとともに、立地的に不便なため利用頻度が少ない施設も多く見られます。

施設等の整備充実では、京丹後夢球場において、スコアボードの改修を実施することができ、利用者からの高評価を得ることができましたが、峰山途中ケ丘公園陸上競技場については、駐車場の整備は進めているものの、公認記録として認定されない施設のままとなっており、整備が大きな課題となっています。

### ④「スポーツを支える基盤の整備と交流の促進」

市内の企業や各種団体からボランティアを募り、3,000人を超える選手を迎え入れたウルトラマラソン等の大規模な大会を開催することができましたが、これら全国規模の大きな大会を支えていくためには、ボランティアによるマンパワーが必要であり、スポーツボランティアの養成のためスポーツボランティア登録制度の創設を検討してきましたが、創設できませんでした。

スポーツを支える担い手として、ボランティアのあり方について再検討の必要があります。

また、広報紙等により全国大会等への出場者の紹介などによる情報提供を行うことで、スポーツを親しむ気運の醸成をはじめ、青少年スポーツや生涯スポーツの推進に貢献しました。

## (2) 今後のスポーツ施策の課題

本市におけるこれまでのスポーツ施策の評価及びアンケート結果を踏まえ、次のとおり課題を整理するとともに、今後の目標として、具体的な施策に活かしていくこととします。

### 課題① 健康な体づくり

---

健康であると感じていたり、体力に自信がある人の割合は、運動やスポーツをしている頻度が高い人ほど多くなっており、体を動かすことが健康状態のよさにつながっていることがうかがえます。しかし、運動不足を感じているのは、男女ともに30～50代が多くなっており、特に30～50代の女性は運動不足を感じている人が約5～6割と多くなっていることから、運動不足を感じている30～50代の特に子育て世代の女性が子どもと一緒に楽しみ、手軽に続けられるスポーツの推進を、健康づくりの取り組みと連携し効果的に進める必要があります。

### 課題② 子どもに対するスポーツ環境の充実

---

親世代の子ども時代と比較して、現在の子どものスポーツ環境が悪くなったと感じている人は、53.1%と過半数を占めています。これは、親世代と比べて施設や設備が悪いと答えたわけではなく、交通事情を含め、社会環境の変化により、不安を感じていることが大きな要因になっていると考えられます。スポーツ環境の整備・充実に努力していくことはもちろんですが、地域コミュニティとの連携を深めて、子どもが安心してスポーツを楽しむことのできる環境づくりを進めていく必要があります。

### 課題③ ライフステージに応じたスポーツ機会の拡充

---

小学生・中学生・高校生まではスポーツに取り組む機会が比較的多くありますが、学校を卒業すると、「スポーツする人」と「スポーツしない人」が完全に二極化してしまいます。

「運動やスポーツをしている」人が少なく（男性 40.1%、女性 26.9%）、「運動やスポーツをしていない」理由については、「仕事（家事・育児を含む）が忙しくて時間がない」という割合が 50%以上となっています。

一方、この 1 年間で行った運動やスポーツでは、老若男女に幅広くウォーキングが受け入れられている実態があることから、更に効果的に推進し、継続できるよう支援していく必要があります。

また、各対象別にスポーツに親しむ機会やきっかけを提供していくなど、子どもから大人まで、生涯を通してスポーツを楽しみながら関わるができるスポーツ施策の充実を図る必要があります。

### 課題④ スポーツ競技力の向上

---

スポーツの競技力向上を図るためには、それぞれの選手の資質を最大限に引き出すことが大切です。優れた競技者のみならず、ジュニア選手など競技者の育成には、優秀な指導者が不可欠です。そのために、高度な専門的知識と高い指導力を持つ指導者の育成ができるよう研修や施設の充実を積極的に推進する必要があります。

ジュニア選手等の競技力を向上させるためには、レベルの高い選手の競技を見る機会を増やすことも大切であるため、競技場等の整備を図り、国際大会等の誘致・開催に取り組む必要があります。

### 課題⑤ スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実

---

本市の社会体育施設については、老朽施設も多く、利用頻度にも大きな差があります。また、多くの体育館は無人の施設であるため、施設を管理するうえで、利用の制限をかけることもあります。こうした施設の管理状況及び利用状況を踏まえて、利用者のニーズや地域の意向を確認し、社会体育施設としての必要性について協議を行う必要があります。

また、スポーツへの関心を高めていくためには、地元選手の活躍や本市の出身選手が国民体育大会等の全国級の大会での活躍を積極的に伝えることが大切になります。

全国大会等の情報を伝えることで、青少年に夢と希望を与え、スポーツへの意欲の醸成につながります。このような情報を素早く発信する方法として、本市のホームページによる情報発信に加え、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した取り組みを強化・充実していく必要があります。

今後、施設整備やボランティア活動への参加など、本市としてのスポーツ推進のビジョンを明確にするとともに、競技スポーツ、観光との連携、健康づくりなど暮らしの中のスポーツ等多面的なスポーツ施策の展開を図る必要があります。

## 第3章 基本的な考え方

### 1. 基本理念

#### 市民が楽しみ ともにつくる スポーツのまち

本市では、年齢や性別、障害の有無に関わらず、市民がいつでも、いつまでも、個々の状況に合わせて、運動やスポーツに親しむことができる「ライフステージに応じたスポーツ施策の推進」「スポーツ競技力の向上」「スポーツ・レクリエーション施設等の整備充実」「スポーツを支える基盤の整備と交流の促進」の実現を目指してきました。今後も子どもから高齢者まで、全ての市民が気軽にスポーツに関心を持ち、健康増進や生きがいにつなげ、スポーツを通じた市民の交流を促進することで活力あるまちを築いていきます。

国の「第2期スポーツ基本計画」では、①スポーツで「人生」が変わる、②スポーツで「社会」を変える、③スポーツで「世界」とつながる、④スポーツで「未来」を創るという観点から「スポーツ参画人口」を拡大し、他分野との連携・協力することで「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むとしています。

本計画においても、未来を創る子どもから時代を歩んできた高齢者まで、ライフステージに応じたスポーツのあり方を考えるとともに、子どもの運動能力の底上げや高齢者の生きがいづくりと障害者スポーツの推進を図ります。さらに、本市の豊かな自然環境を活かしたスポーツ観光による新たな魅力を発信し、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えたホストタウンや「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」に取り組むことで、国際社会に向けた多面的なスポーツ施策の展開を図り、「市民が楽しみ ともにつくる スポーツのまち」を創造します。



オリンピックによるカヌー指導(ホストタウン事業)



歴史街道丹後 100km ウルトラマラソン

## 2. 計画の目標

本計画では、「第2次京丹後市総合計画」の基本計画を踏まえ、「市民が楽しみ ともにつくる スポーツのまち」をコンセプトに、スポーツ施策を推進します。また、市民の誰もが、目的やライフステージに応じてスポーツに取り組むことができるスポーツ振興を目指すとともに、スポーツを通じて京丹後市のさらなる活性化を図ります。

### (1) ライフステージに応じたスポーツ施策の推進

市民が、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む基盤として、市民の誰もが各々の年代や関心、適性等に応じて日常的にスポーツに親しむ機会の充実を図るとともに、スポーツ未実施者への働きかけを行い、「する」「みる」「ささえる」スポーツの楽しみ方や関わり方などをわかりやすく提案します。さらに、今後のスポーツ活動の推進にあたり、子どもたちに対する多様なスポーツの実施機会の提供のほか、子どもの中にスポーツや遊びに関わる時間を増やし、底辺の拡充を図るなど、スポーツに対する関心を高めるとともに、スポーツに取り組む環境を充実させるなど、子どもがスポーツを楽しむための基盤をつくります。

### (2) スポーツ競技力の向上

2020年オリンピック・パラリンピックのホストタウン及び「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」に積極的に関わることで、国際交流と競技力の向上を目指します。また、スポーツを行う人のレベルや目的に合わせた適切な指導ができるよう、スポーツ指導者に対する研修会や講習会を開催し、スポーツ指導者の人材育成を図るなど、競技者と指導者、双方の育成を図ります。

### (3) スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実

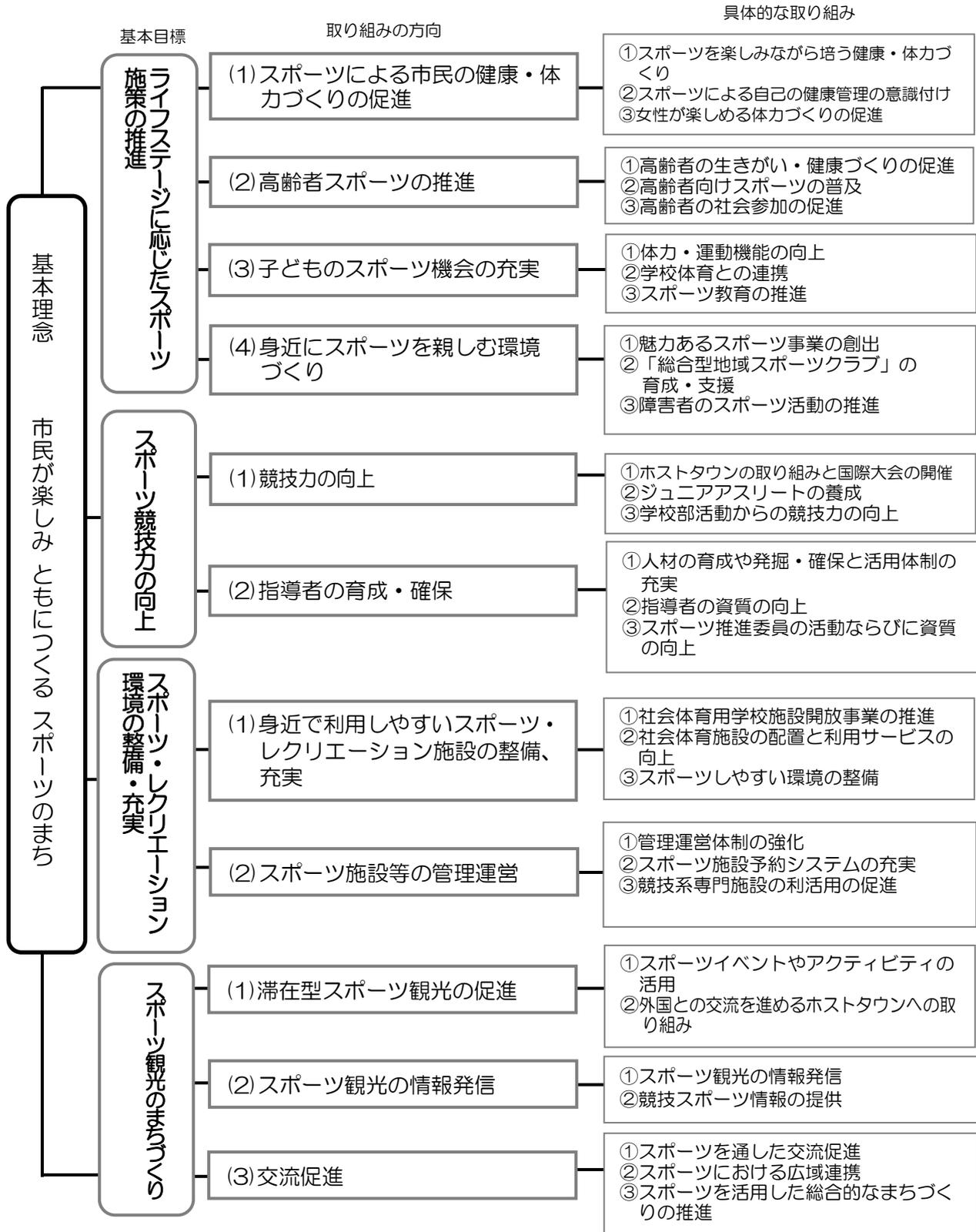
スポーツ活動を実践していくためには、安全で利用しやすいスポーツ施設が身近に充実していることが大切です。今後も市民のスポーツ・レクリエーション活動の場としてのスポーツ施設が果たすべき役割を再認識し、施設や設備の点検・整備を行うとともに、ニーズに応じた施設の改修について検討を行うなど、市民がスポーツに親しみやすい環境を整備します。また、既設のスポーツ施設の利活用について、利用者や地域の意見を反映させた整備計画を立案し、効果的な利用が図れるよう取り組みます。

### (4) スポーツ観光のまちづくり

スポーツは人と人、地域と地域の交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成し、健康で活力に満ちた長寿社会の実現には必要不可欠な要素です。今後、広域的に行政と関係団体が連携を図りながら、本市の地形、自然等を活かした各種スポーツイベントの実施や2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据えたホストタウン及び「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」などの国際大会の開催、ジオパークの魅力を活かしたアクティビティの場や機会を提供することで、スポーツと観光の連携をより深めたまちづくりを進めます。

### 3. 施策体系

本計画では3つの柱を基本目標として継続し、今回新たに「スポーツ観光のまちづくり」を基本目標に掲げ、「市民が楽しみ ともにつくる スポーツのまち」の創設を目指します。



## 4. 施策の展開

### 基本目標 1

### ライフステージに応じたスポーツ施策の推進

#### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値 (H28)	最終目標値 (H39)
成人の週 1 回以上のスポーツ実施率	%	40.9	65.0
【指標内容】：市民アンケート調査結果から設定。国の目標は 65.0%。			

#### (1) スポーツによる市民の健康・体力づくりの促進

##### 施策名 ① スポーツを楽しみながら培う健康・体力づくり

◇市民が、心身ともに健康で豊かな日常生活を送るために、日頃からスポーツに親しむことは重要な要素であると考えられます。このため、市民が身近な地域でスポーツに親しみ、健康づくりへの関心を高めるような取り組みとして、市民のニーズが高かったウオーキングを中心に、気軽に親しめるスポーツを推進していきます。

◇ウオーキングよりも更に運動効率の高いノルディック・ウオーキングの普及推進に努めます。

##### 施策名 ② スポーツによる自己の健康管理の意識付け

◇スポーツによる事故や怪我を未然に防止するために、まず自分の健康状態や運動能力を事前に把握することが重要であり、自己の健康管理意識の高揚を図ります。

◇新体力テストは、自己の体力年齢を知る機会として有効な手段であることから、社会人の新体力テストの実施を全市的な取り組みとして進めます。

◇スポーツは誰もが取り組めるものというイメージを共有し、ノルディック・ウオーキング等のイベントを定期的で開催して、個人の体力や生活のリズムに合わせ気軽に取り組めるスポーツの普及啓発を行います。

##### 施策名 ③ 女性が楽しめる体力づくりの促進

◇子育て世代の母親に運動を行う機会が少ないため、親子で一緒に楽しめる、ニュースポーツを通じて、女性の体力づくりを推進します。

◇家庭教育支援チームが取り組む事業に、スポーツ推進委員が積極的に関わり、体力づくりの促進を図ります。

## (2)高齢者スポーツの推進

### 施策名 ①高齢者の生きがい・健康づくりの促進

◇高齢化が進む今日、高齢者のスポーツ活動は、健康の保持・増進だけでなく、孤立を防ぐとともに、生きがい対策としても重要な役割があります。このため、高齢者を対象とした事業にスポーツ推進委員も積極的に関り、高齢者の生きがいづくりと健康寿命を伸ばす取り組みを進めます。

### 施策名 ②高齢者向けスポーツの普及

◇いくつになっても元気に動ける体づくりを目標に、各地区で健康体操及び介護予防体操を実施することで、高齢者の健康保持増進だけでなく、交流や生きがいづくりを推進します。  
◇高齢者が取り組みたいスポーツで、ウォーキングの要望が高いことから、介護予防としても効果が見込めるため、個人はもとより集団でも楽しめる高齢者向けのスポーツとして、ノルディック・ウォーキングを推進します。

### 施策名 ③高齢者の社会参加の促進

◇スポーツが高齢者の健康増進や生きがいづくりに大きな役割を果たすことから、高齢者向けのスポーツを普及させるとともに、ボランティアへの参加や大会の応援など、スポーツ活動を通じた社会参加の機会を提供します。  
◇一人で楽しみ、体を動かすだけでなく、たくさんの仲間と競い合い、助け合って続けられる魅力あるスポーツの提案を行います。



地区のウォーキング教室



介護予防体操教室

### (3)子どものスポーツ機会の充実

#### 施策名 ①体力・運動機能の向上

◇子どもの体力の低下は、全国的な課題であり、子どもの体力・運動能力向上、スポーツ機会の充実が必要となっています。このため、体力テスト等調査の実施により、児童生徒の体力の実態を客観的に把握し、継続的な体力向上の取り組みを進めるとともに、スポーツに苦手意識のある子どもでも気軽に参加できるイベント・大会等を開催します。

◇子どもがスポーツに取り組む環境の強化を図るため、市内の各スポーツ教室を京丹後市スポーツ少年団として組織化しました。今後は、地域・家庭・学校の協力を得ながら、京丹後市スポーツ少年団が連携をより一層強化することで、スポーツに親しむ環境を構築し、楽しさを感じさせる子どもスポーツの推進を図ります。

#### 施策名 ②学校体育との連携

◇学校における体育活動を通じ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育てるとともに、放課後や地域における子どものスポーツ機会の充実に取り組みます。

◇運動の日常化を図る取り組みを推進するとともに、体育授業はもとより学校行事等においても、子どもたちの体力、運動能力の向上につながる取り組みを推進し、学校・地域・児童生徒・保護者等が協力してスポーツを実施できるよう支援を図ります。

#### 施策名 ③スポーツ教育の推進

◇運動部活動が、学校教育の一環として、子どもがスポーツに親しみ、子どもの責任感や連帯感を養う上で重要な活動として教育的意義が高いことを踏まえ、スポーツ少年団等が行っている活動との連携を図り、スポーツを通じた青少年の健全育成を推進し、スポーツ・運動に親しむ機会の充実に取り組みます。

◇医療機関やスポーツ団体等と連携し、過重な運動による事故や障害を防止するための検診や学習機会の提供に努めます。



世界大会・全国大会出場激励会



少年野球教室

## (4)身近にスポーツを親しむ環境づくり

### 施策名 ①魅力あるスポーツ事業の創出

◇成人の週1回以上のスポーツ実施率の向上を目指す本市において、市民のスポーツへの関心を高めるために、スポーツの楽しさを実感できる事業の創出が必要です。このため、市民のニーズに応じた魅力あるスポーツとして、ノルディック・ウォーキングのイベントを実施するなど、誰もが気軽に参加しやすい事業となるような工夫をし、魅力ある事業内容を展開することで生涯にわたって継続したスポーツ活動を促進します。

◇市民のニーズが高いスポーツイベント等の開催により「見るスポーツ」の充実を図ることでスポーツへの関心を高める活動を進めます。

### 施策名 ②「総合型地域スポーツクラブ」の育成・支援

◇市民が種目を超えてスポーツを「する」「ささえる」仕組みを担っている、総合型地域スポーツクラブが、地域スポーツの担い手として、継続して役割を果たせるよう活動内容の充実を図り、総合型地域スポーツクラブの自立的な運営につながるよう支援を行います。

◇「総合型地域スポーツクラブ」の広報・啓発に努め、スポーツを通じたまちづくりが展開されるよう、地域コミュニティの醸成や活力あるクラブの育成・支援を行います。

### 施策名 ③障害者のスポーツ活動の推進

◇障害者をはじめ配慮が必要な様々な方がスポーツを通じて社会参画できることが、共生社会の実現に向けて求められています。このため、障害者と健常者が一緒になって楽しめるようなニュースポーツの普及推進に努めます。

◇障害者に対するスポーツ指導者を充実させるため、スポーツ推進委員会を中心に指導者の育成を図ります。

◇障害者が、障害の種類や程度、さらにはライフステージに応じて、身近な地域で皆と一緒に日常的にスポーツを楽しめる「生涯スポーツ」の環境整備について検討していきます。



総合型地域スポーツクラブの活動(健康教室)



地域コミュニティイベント(絆フェスタ)

**基本目標2****スポーツ競技力の向上**

## ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値 (H28)	最終目標値 (H39)
京都府民総合体育大会入賞競技数	競技	5	10
【指標内容】： 京都府民総合体育大会結果から設定。			

**(1)競技力の向上****施策名 ①ホストタウンの取り組みと国際大会の開催**

◇2020年東京オリンピック・パラリンピックのカヌー競技のホストタウンとして、アジア、ヨーロッパの強豪国の合宿を受入れ、子どもたちがオリンピック選手と交流することにより、夢と希望を強く持ち、オリンピックなどの世界大会出場を目指す選手の育成を推進します。

◇アジアで初となる「ワールドマスターズゲームズ2021 関西（生涯スポーツの国際総合競技大会）」のカヌーマラソン競技を久美浜湾で開催し、アスリートの技術を見せることで、競技に対する意欲を高め競技力の向上を目指します。

**施策名 ②ジュニアアスリートの養成**

◇子どもが好きなスポーツで将来の夢や希望を持ち、それを達成できるようスポーツに取り組んでいける競技場等の環境整備を進め、競技を実践するだけでなく、高いレベルの競技を観戦できる機会を設け、子どもがアスリートを目指す意欲の向上に取り組めます。

◇ジュニアスポーツ教室等による競技人口の拡大を図るとともに、学校体育団体等と連携を深めることで、将来性を有するジュニアアスリートを発掘し育成する支援体制を継続して進めます。

**施策名 ③学校部活動からの競技力の向上**

◇運動部活動において、地域スポーツ指導者が子どもたちに実技指導等を行い、運動部の活動充実を図ってきました。新たに制度化された部活動指導員を活用することで、専門知識を持った指導者を外部から顧問として迎え入れるとともに、高い技術を持った地域のスポーツ指導者と学校の連携を強化し、運動部活動の環境を整え、競技力の向上を目指します。

## (2)指導者の育成・確保

### 施策名 ①人材の育成や発掘・確保と活用体制の充実

- ◇スポーツ人口の拡大及び競技力の向上を図るためには、指導者の確保と指導体制の確立が不可欠です。これからの指導者に求められることは、専門分野の指導力だけではなく、栄養指導やスポーツ障害の予防、メンタルトレーニング等に至るまで多様化しています。このような状況に直面しているスポーツ少年団等の指導者と連携を深め、研修会等に取り組みます。
- ◇市民ニーズに応じた指導者の養成やスポーツ活動実施率向上を図るため、体育協会等と連携して各種研修会や講演会を開催します。

### 施策名 ②指導者の資質の向上

- ◇指導者の資質向上と新たな指導者の育成は重要な課題です。このため、最新のスポーツ医学・科学情報や客観的なデータの活用方法、そして、コーチングスキルの習得を目的とした指導者講習会を実施し、スポーツ指導者に求められる資質・能力の向上を図ります。
- ◇競技力の向上の視点に立った基礎体力の向上等、共通の課題や効果的な指導方法について、具体的な実践から学び、必要な情報を共有できるよう指導者の指導力向上及び育成を目的とした研修会や講習会等を開催します。

### 施策名 ③スポーツ推進委員の活動ならびに資質の向上

- ◇スポーツニーズを把握し、スポーツ人口の底辺を拡大していくためには、身近な地域のスポーツ指導者として活動するスポーツ推進委員の役割は重要です。しかし、市民アンケートの結果では、本市のスポーツ推進委員の認知度は低く、活動も市内全地域への周知が図れていないため、このような状況を改善するためにも、市民が気楽に参加でき、楽しめるスポーツを探求するとともに、先進的なニュースポーツを紹介している研修会等へ積極的に参加し、スポーツ推進委員の資質の向上に努めるとともに、広報等を通じ活動の周知を図ります。
- ◇ニュースポーツ教室等市民のニーズに合った定期的なスポーツ活動の場を提供するとともに、公民館及び小中学校PTAなどと連携し、身近な場でのスポーツ活動の普及・定着を図ります。



ニュースポーツ(ビーチボールバレー)



スポーツ推進委員(ノルデック・ウォーキング研修)

**基本目標3****スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実**

## ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値 (H28)	最終目標値 (H39)
公共スポーツ施設の利用回数	回	13,682	16,000
【指標内容】： 公共施設利用状況調査結果より設定。			

**(1)身近で利用しやすいスポーツ・レクリエーション施設の整備、充実****施策名 ①社会体育用学校開放施設事業の推進**

◇学校体育施設は、市民にとって身近なスポーツ活動の場です。このため、利便性の向上を図りつつ引き続き施設の開放を進めます。併せて、学校体育施設の老朽化が進む中で、今後も継続して市民が安全・快適に利用できるよう計画的な施設・設備の整備に努めます。

**施策名 ②社会体育施設の配置と利用サービスの向上**

◇体育施設は、市民のスポーツ活動を進める拠点です。このため、体育施設の利用実態を把握して利用率の向上を図ることが重要です。しかしながら、老朽施設や利用が少ない施設も少なくありません。社会体育施設としての利用廃止も含め、利用者や関係団体と協議を行い、市内全体のバランスを考慮した社会体育施設の配置と整備充実を図ります。

◇施設の付帯設備及び利用手続き等について利用者の意見を聞きながら、利用者の利便性の向上を図るための、インターネットを利用した予約システムの充実を図ります。

**施策名 ③スポーツしやすい環境の整備**

◇都市公園の付帯施設として整備されている峰山総合公園、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場、八丁浜シーサイドパークは、多くのスポーツ等を楽しめる拠点施設であり、今まで以上にスポーツしやすい環境整備の充実にも努めます。また、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の第3種公認陸上競技場への整備を検討します。

◇屋内競技を行う社会体育施設についても利便性の向上につなげるため整備充実を図ります。



京丹後夢球場



大宮社会体育館

## (2)スポーツ施設等の管理運営

### 施策名 ①管理運営体制の強化

- ◇市民が気軽にスポーツ活動ができる環境をつくるためには、施設の運営体制を強化することが必要です。このため、多様化する市民ニーズに対応した効果的な管理運営が行えるよう、施設利用サービスの向上に努めます。
- ◇社会体育施設の効果的な利用を促進するため、現在直営で行っている管理運営について、スポーツ関係団体等への指定管理や委託などについて話し合いを行ないます。

### 施策名 ②スポーツ施設予約システムの充実

- ◇市民が気軽に利用できるよう、インターネット等を利用した施設予約システムの利用促進を図り、使用料体系や減免制度の見直しについて検討を行い、施設利用サービスの向上に努めます。
- ◇滞在型スポーツの推進として、合宿誘致の経験のある観光関係者との連携を図り、社会体育施設の有効利用につながるサービスの向上に努めます。

### 施策名 ③競技系専門施設の利活用の促進

- ◇峰山途中ヶ丘公園陸上競技場は、公認記録として認定される大会を開催することができないため、利用回数が減少している状況にあります。このため、利活用の促進と競技力の向上を図るためには、陸上競技場の機能アップが必要不可欠であり、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の第3種公認陸上競技場への整備を検討します。
- ◇「ワールドマスターズゲームズ2021 関西（カヌーマラソン）」の開催に向け、久美浜湾カヌー競技場の改修を行うことで、国際大会をはじめ、国内の大会誘致の可能性が広がり、交流人口の拡大が見込めるとともに、シオ・スポーツの拠点施設としての利活用も図れるため、施設整備計画を推進します。



峰山途中ヶ丘公園陸上競技場



久美浜湾カヌー競技場

<b>基本目標4</b>	<b>スポーツ観光のまちづくり</b>
--------------	---------------------

◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値 (H27)	最終目標値 (H39)
スポーツイベント参加者数	人	12,686	20,000
【指標内容】： 第2次京丹後市総合計画「基本計画」から設定。			

**(1) 滞在型スポーツ観光の促進**

<b>施策名</b>	<b>①スポーツイベントやアクティビティの活用</b>
◇自然豊かな観光資源を活用したスポーツイベント（丹後 100km ウルトラマラソン、丹後大学駅伝、丹後半島ラリー、TANTAN ロングライド、ドラゴンカヌー大会、「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」など）の開催、ジオパークの魅力を活かしたアクティビティの場や機会を提供することで本市の魅力を発信し、参加者の増加及びリピーターの確保を図ります。	

<b>施策名</b>	<b>②外国との交流を進めるホストタウンへの取り組み</b>
◇2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人アスリートなど、国際社会との交流を進めるホストタウンの取り組みを推進します。	

**(2) スポーツ情報の発信**

<b>施策名</b>	<b>①スポーツ観光の情報発信</b>
◇海の京都DMOや豊岡DMOなど、広域連携による効果的なプロモーションを活用して、スポーツイベント等の周知を図ります。	
◇体育施設の予約状況をインターネットで公表し、観光関係者と連携を図ることで、合宿等の滞在型スポーツの普及を図ります。	

<b>施策名</b>	<b>②競技スポーツ情報の提供</b>
◇広報紙やホームページ等により国際大会や全国大会等に出場する選手・チームなどを積極的に発信することにより、市民の競技スポーツへの関心を高めます。	
◇2020年東京オリンピック・パラリンピックを好機と捉え、観光関係者と連携を図り、外国人の誘客につながるスポーツ観光の情報発信の強化に取り組みます。	

### (3)交流促進

#### 施策名 ①スポーツを通じた交流促進

- ◇各種スポーツイベントの積極的な実施はスポーツ交流機会の拡充、スポーツを通じた幅広い地域間交流と市民参加を促進することにつながります。「する」「みる」「ささえる」など様々な立場や役割で市民が関わるスポーツイベントを開催・誘致し、地域コミュニティの活性化を図ります。また、スポーツを通じた国際交流事業として、ホストタウンや「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」に取り組むことで、国内外のスポーツ選手等と積極的に関わることにより人材育成を目指します。
- ◇大規模なスポーツ大会やスポーツ合宿等を誘致することにより、交流人口の拡大、地域経済効果の向上を図るとともに、観光振興を通じた地域スポーツ・競技スポーツの充実を図るなど、スポーツによるまちづくりを推進します。

#### 施策名 ②スポーツにおける広域連携

- ◇オリンピック・パラリンピック関係のホストタウンや「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」に取り組むことで、国内外へ向けた情報発信、スポーツと観光を組み合わせた「スポーツツーリズム」による交流人口の拡大に取り組みます。
- ◇競技施設の整備・充実を推進することで、海の京都DMOなどの観光関係者と連携を図り、スポーツ大会や合宿の誘致に積極的に取り組み、本市への来訪者を増やし地域の活性化に取り組みます。

#### 施策名 ③スポーツを活用した総合的なまちづくりの推進

- ◇スポーツは、市民が心身ともに健康で文化的な生活を営むために必要なものであるばかりではなく、地域振興や経済効果そして長寿社会を築くなどまちづくりを進めるための様々な効果に対する期待があります。このため、市民の誰もがそれぞれの年齢や体力、目的に応じて、「いつでも」「どこでも」「誰でも」「いつまでも」スポーツに関わることができる機会を効果的に提供します。
- ◇ジオパークなどの地域資源や特徴を活かしたスポーツ活動を推進するとともに、関係機関と連携を図りながら、「スポーツ観光」の視点による取り組みを発展させていきます。
- ◇スポーツの推進は「世界共通の人類の文化」として、本市はもとより国・府のスポーツの発展にもつながります。今後、さらにスポーツを活用した総合的なまちづくりを推進することにより、健康の保持増進や体力の向上だけでなく、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成につながるよう、創造的な文化活動の1つとして各事業と連携を図ります。

## 第4章 計画の推進に向けて

### 計画の進捗管理

#### (1) 市役所庁内における推進体制の整備

計画は生涯学習課を事務局とし、スポーツを通して京丹後市の活性化を市役所全庁的に推進していくため「京丹後市スポーツのまちづくり推進本部」を中心に関係各課と情報共有等、連携を図りながら取り組みを推進します。本計画で掲げた市民のスポーツ推進に関する各施策については、PDCAサイクル（計画管理のためのサイクル）を実行し、毎年、担当課において点検や評価を行うことで計画の進捗状況を把握し、実効性を確保します。

※平成 30 年 4 月 1 日 社会教育課から生涯学習課へ名称変更

#### ■PDCAサイクル



#### (2) 市民視点からの推進体制の整備

計画の進捗状況や数値目標の達成状況を広報紙やホームページ等を活用して随時公表することで、市民や関係団体などの意見の施策への反映に努めます。また、京丹後市スポーツ推進審議会において、計画の進捗状況を管理します。その際、本市のスポーツ推進に重要な役割を担う各種団体と定期的に意見交換を行い、施策や事業の推進に活かします。

#### (3) 市民、団体等との連携・協働

市民が日常的にスポーツに取り組めるよう、意識啓発活動を推進するとともに誰もが参加しやすい環境づくりを進めます。また、統計データの収集や、定期的な市民アンケートの実施などにより、市民ニーズを把握した上で計画の改善などに活かします。

また、より一層のスポーツ活動の振興を図るため、スポーツに取り組む各種団体の自主的な活動を支援するとともに、各種団体と連携・協働した取り組みを積極的に実施します。

# 資料編

## 平成 26 年度スポーツ政策調査研究調査報告書抜粋

### 第5章 本調査研究の成果と課題

#### 5.3 スポーツや身体運動の促進による医療費削減効果

本調査研究からは、大学、自治体、企業において非常に優れた研究や事業が実施されており、ウォーキングやストレッチ・筋力体操などの身体運動の促進は、健康維持増進や生活習慣病予防といった身体面での効果が高く、こうした運動の継続は、確実に医療費削減つながることが分かった。信州大学の研究報告では、信州大学が開発した「インターバル速歩」を5カ月間継続すると、主な効果として、①体力が最大20%向上する、②生活習慣病の数値が約20%改善する、③年間にかかる医療費を約20%節約できる、という「インターバル速歩20の法則」が実証されている。したがって、1人でも多くの国民がスポーツや身体運動に取り組み、継続できれば、国民全体では生活習慣病の改善が見込まれ、莫大な医療費削減となる。とりわけ、ウォーキングは、老若男女を問わず、いつでも、どこでも、お金をかけずに、手軽にできる身体運動であることから、国民に最も推奨される身体運動である。

今後は、本調査研究から明らかになった医療費削減に資するウォーキングやストレッチ・筋力体操などの身体運動の取り組みを自治体、企業、国民全体に周知し、運動の実施と継続に向けた行動変容を促すことが最大の課題となる。有効な行動変容の手段については「4.3 ヒアリング結果の考察」記載したとおりであり、こうした有効な手段を活用した取り組みが、自治体、企業、国民全体に広がっていくことが必要不可欠である。

近年、我が国は世界に類を見ないスピードで高齢化が進み、これに伴い医療費も急増している。医療費が多くかかるのは60代以上の年齢層である。60代以上の年齢層が運動の実施により、元気で自立した生活ができること、すなわち健康寿命の延伸が医療費削減や介護保険料の削減には最も効果がある。健康寿命の延伸に向け、ウォーキングやストレッチ・筋力体操などの身体運動が国民に広く普及していくことを期待したい。

# 京丹後市スポーツ推進審議会条例

## ○京丹後市スポーツ推進審議会条例

平成16年4月1日

条例第46号

改正 平成23年11月30日条例第28号

(設置)

第1条 市民スポーツの推進を図るため、スポーツ基本法(平成23年法律第78号。以下「法」という。)第31条の規定に基づき、京丹後市スポーツ推進審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、教育委員会の諮問に応じ、スポーツの推進に関する事項について調査及び審議する。

(組織)

第3条 審議会は、12人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) スポーツに関する学識経験者

(2) 関係行政機関の職員

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任を妨げない。

(会長及び副会長)

第4条 審議会に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 審議会の会議は、会長が招集し、会長は、その議長となる。

2 審議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 審議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第6条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成23年11月30日条例第28号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

## 京丹後市スポーツ推進審議会委員名簿

役 職	氏 名	所 属
会長	長尾 国顕	京丹後市体育協会副会長
副会長	松井 安則	京丹後市商工会事務局長
	正田 絢子	京都府立網野高等学校教諭 (レスリング部顧問)
	今井 みどり	京都府ママさんバレーボール連盟 <a href="#">参与</a>
	小石原 正志	京丹後市体育協会理事長
	吉岡 直樹	よしおかクリニック院長
	足立 俊治	網野町ジュニアスポーツ協会監査
	金森 智徳	京丹後市スポーツ少年団副本部長
	田崎 仁志	京丹後市スポーツ推進委員会会長
	川口 勝彦	京丹後市区長連絡協議会会長 (大宮町区長連絡協議会会長)
	室田 秀和	京丹後市小学校体育連盟会長
	下戸 昭宏	京丹後市中学校体育連盟会長

順不同・敬称略

## 用語解説

### 【ア行】

アクティビティ	自分の行為全般、スポーツ活動など。 日本では特にリゾート地や旅行先での遊びという意味でよく使われます。
アマチュアスポーツ	アマチュアが行うスポーツ。一般にプロスポーツとの対比で使われる。近年ではオリンピック選手の事実上のプロ化で境界があいまいになっている。
運動指導 インストラクター	科学的に裏づけられたトレーニングメニューを作り、個人の希望や年齢、体力に応じた指導を行う。工業技術、スポーツなどの分野に於いて様々な指導を行う立場の者をいう。主に、指導者用の教育を経てインストラクターの資格を有することとなる。

### 【カ行】

共生社会	これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会であり、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会のこと。
グラウンド・ゴルフ	ゴルフを基本に、日本で考案されたニュースポーツの一種。学校などのグラウンドでも気軽に行えるということをイメージして名づけられた。必要とするプレイ時間は、標準的なコースで8ホール 30分程度。
コーチングスキル	「人は無限の可能性をもっている」「その人が必要とする答えはその人のなかにある」「その答えに気付くためにはサポートが必要である」この3つを基本にして、個人的な特性と強みを活かし、その人が本来もっている能力と可能性を最大限に発揮することを目的として、自ら考えさせ、行動を促すために、相手の取るべき手段を引き出すコミュニケーションサポートのことをいう。
コミュニティづくり	地域社会において希薄化が懸念されている人間同士の交流を活発にし、地域住民相互の連帯感を高め、創造性豊かな市民生活が営めるよう、新しい地域社会をつくっていかこうとする運動。

### 【サ行】

指定管理	地方公共団体が住民の福祉を増進する目的で設置した公の施設の管理運営を、地方公共団体が指定した民間事業者を含む法人・団体に行わせる制度。
------	---

シオ・スポーツ	シオパークの自然の魅力を活用したスポーツ活動。
スポーツ観光	スポーツを資源とした総合的な観光のまちづくりの取り組み。
スポーツ基本法	昭和 36 年に制定されたスポーツ振興法（昭和 36 年法律第 141 号）を 50 年ぶりに改正し、スポーツに関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めるもの。
スポーツ基本計画	スポーツ基本法の理念を具体化し、今後の我が国のスポーツ施策の具体的な方向性を示すものとして、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進していくための重要な指針として位置づけられるもの。
スポーツ振興法	1961 年 6 月に制定された、日本におけるスポーツ振興の基本法。内容は総則、スポーツ振興のための措置、スポーツ振興審議会及び体育指導委員、国の補助の 4 章からなり、特にスポーツ振興に関する国及び地方公共団体の施策の基本と任務を明示するとともに、スポーツは国民に強制することなく、常に国民の自主性を尊重し、それぞれの適性と健康状態に応じて実践するものであることを強調している。
スポーツ文化	スポーツは、人間の体を動かすという本源的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や、楽しさ、喜びを与えるなど、人類の創造的な文化活動の一つとして捉えられている。
スポーツツーリズム	プロスポーツなどの観戦やマラソン、ウォーキングなどのスポーツイベントへの参加を目的とし、開催地周辺の観光とを組み合わせた旅行スタイルをいう。
スポーツ少年団	スポーツを通じて、青少年の健全育成を目的とする社会教育団体。スポーツ少年団と言った場合、社会体育として位置づけられる団体（クラブチーム）であり、クラブ活動のような学校の団体ではない。
スポーツ推進委員	スポーツ基本法第 32 条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する委員。任期 2 年の非常勤公務員。
生涯スポーツ	生涯スポーツ（lifelong sport）とは、その生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に「だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる」スポーツをいう。
新体力テスト	健康で毎日元気に生活したり、走る、飛ぶ、投げるなどの体を力強く動かす能力を調べるもの。
総合型地域スポーツクラブ	人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブ。「多世代」「多種目」「多志向」という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営される。

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）	インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築するサービスのことである。
--------------------------	--

【タ行】

トップアスリート	アスリートの中でも一流と認められる者は「トップアスリート（top athlete）」と呼ばれる。一般的にはオリンピックや世界選手権出場レベルの者や、各競技の世界ランキング上位者などをいう。
地区サロン	地区で高齢者や障がい児・者、子育て中の方が、生きがい活動と元気に暮らすきっかけづくりを見つけ、地域の人同士のつながりを深める自主活動の場。
DMO	観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。

【ナ行】

ニュースポーツ	20世紀後半以降に新しく考案・紹介されたスポーツ群。一般に、勝敗にこだわらずレクリエーションの一環として気軽に楽しむことを主眼とした身体運動をいう。
ノルディック・ウォーキング	北欧のクロスカントリー選手の夏場のトレーニングとして始まり、近年は一般向けの健康づくりとして国内でも広まりつつある。ポールと両足の4点で支えるため足腰の負担が和らぐ。両腕を大きく動かすため消費カロリーは普通に歩くよりも約20%高い。
ネットワーク	人間や組織のつながりによる社会的関係性など、広がりをもったつながりをいう。

【ハ行】

PDCAサイクル	管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善するもの。
バリアフリー	障害者や高齢者が社会生活をする上で、障壁（バリア）となるものを除去するという意味。
ホストタウン	2020年東京オリンピック・パラリンピックに参加する世界各国が日本の各都市で事前合宿が行えるように協力をするため、事前合宿の誘致や参加国・地域との交流事業などを担う自治体を「ホストタウン」として登録し、地方創生の推進を目指す政府の取り組み。

【マ行】

メンタルトレーニング	精神の安定・集中を目的とする自己管理トレーニング。
------------	---------------------------

【ラ行】

ライフステージ	人間の一生を少年期・青年期・壮年期・老年期などと分けた、それぞれの段階のことをいう。
ライフスタイル	人々の生活様式、行動様式、思考様式といった生活諸側面の社会的・文化的・心理的な差異を全体的な形で表現したことは。

【ワ行】

ワールドマスタースゲームズ2021 関西	国際マスタースゲームズ協会（IMGA）が4年ごとに主催する、原則30歳以上の方なら参加登録さえすれば出場できる生涯スポーツの国際総合競技大会のこと。2021年は、アジア初の本大会が関西全域で開催予定。
----------------------	--

---

## 京丹後市スポーツ推進計画

市民が楽しみ ともにつくる スポーツのまち

発 行：京丹後市  
編 集：京丹後市教育委員会事務局  
住 所：〒629-2501  
京都府京丹後市大宮町口大野 226  
TEL：0772-69-0630  
FAX：0772-68-9061

発行年月：平成 30 年 3 月

---